

南 部

スローガン

支え合い・つながろう・安全安心な南部 !!

実践目標①防災情報の共有と体制の強化

実践目標②みんなが集まる地域イベントの工夫

実践目標③ひとり暮らしに声をかけよう



南部地区は歴史ある地縁の深い地域で、近年においては少子高齢化の影響から、中津市内の中でも高齢化率の高い地域でもあり、つながりづくりのためのサロン活動も展開されています。また、川や海が近いことからの防災への意識も高い地域です。

このような地域状況を理解しながら地域福祉活動を推進していくための「南部校区地域福祉ネットワーク協議会“ぼけっと”」もあり、地区内で活動する団体同士の情報共有の場や地域福祉情報紙の発行、研修会の実施などに取り組んでいます。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	3,522	3,306	2,911
世帯数	1,660	1,631	1,545
高齢化率	34.3%	38.6%	41.0%
一人暮らし高齢者	385	435	437
高齢者のみの世帯		934	877
0~18 歳人口	479	477	376

※各年ともに9月30日時点のもの（中津市の統計データより）

実践目標と設定理由・効果

実践目標①

防災情報の共有と体制の強化

「災害の訓練が不十分」「安全な避難場所がない」「地区によってばらつきがある」等の問題点が意見として多くでました。

南部地区は高齢化率も高く、各自の防災意識は高いものの、実際に災害が起きた際にどうすればいいのかという不安も大きいことが、防災の取り組みの必要性に結びつきました。

自治委員だけでなく防災士や消防団などが一緒に考える体制づくりや小地域の単位での情報共有などの具体的な実践を通じて、住民同士の意識の共有ができ、自主防災組織の機能が強化され、訓練の実施にもつながり、安心・安全につながります。

実践目標②

みんなが集まる地域イベントの工夫

「人の集まる場所に参加している人と参加していない人（できない人も含む）で個人差がある」「閉じこもりがちの人がいる」「交流があるのか無いのか情報がない」「近隣でもあいさつをしない」などの、日常生活のつながりの機会が不足しているという問題点が出ました。

高齢化が進んでいるからこそ、改めて住民同士のつながりを地域で協力した楽しい場を通じて作ることが大切です。

お互いに得意なこと発揮し合う場になることで、ひとりひとりの生きがいづくりにもつながります。

実践目標③

ひとり暮らしに声をかけよう

「75歳以上の男性の一人暮らしが孤立しがち」「居場所がなく孤立している人がいる」「サロンのことを知らない人がいる」「生きがいを持っている人、持っていない人の個人差がある」などの問題点から、孤立しがちな一人暮らしの人に、意識して声かけすることが必要です。孤立が続くと認知症になる可能性も高くなってしまいます。

いろいろな情報提供手段を考えたり、見守り声かけのための話し合いの場をつくることで、高齢になっても、何か困った時にもお互いに助け合える地域づくりにつながります。

他にも出ましたこんな課題 !!

成年後見について
知ろう

障がいのある人・
ひきこもりの人への
理解

気軽に寄れる場を
つくる

地域の安心安全
(防犯)を進める

高齢者の生きがい
づくりを進めよう

フードバンク
の取り組み

情報紙「ぼけっ
と」の充実



【南部】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
防災士（会）に対して支援をする					
小祝や金谷等、小地域の地域性を考えながら取り組みをする					
地域住民で話し合い、安全で歩いて行ける範囲の避難所を決める					
町単位や組単位で、自治委員や防災士と一緒に話し合いをする					
消防団員を含めた協力体制づくりを進める					
水害や火事などの時のために、各地区の活動状況の情報共有をする					
自由で気軽に集まれる場づくりをする（井戸端会議のような）					
気軽に集まれる場づくり（防災訓練も一つの方法）					
公民館まつり等今ある行事を大切に、魅力あるイベントする					
体操やグランドゴルフへの参加を進める					
高齢者が地域で活躍できる場や仕組みづくりを進める					
障がいのある人と一緒に参加するイベントを実施する（運動会等）					
お互い声をかけあい、一緒に参加できるよう誘い合う					
広報による情報伝達をする					
一人暮らしマップを作る					
近隣のちょっとした手伝いをひろげる					
一人暮らしの人を支えるための話し合いの場を作る					
隣接する校区で連携コミュニケーションをとる					
市の防災ラジオの活用など、情報発信の方法を工夫する					

子どもを中心にした地域づくりを考えよう

高齢男性の孤立を防ぐ「おじさん食堂」をつくろう

小地域単位の話し合いをしよう

福祉の広報
つながる情報発信

ボランティアの情報発信をしよう

声を上げられる、相談できる場づくり

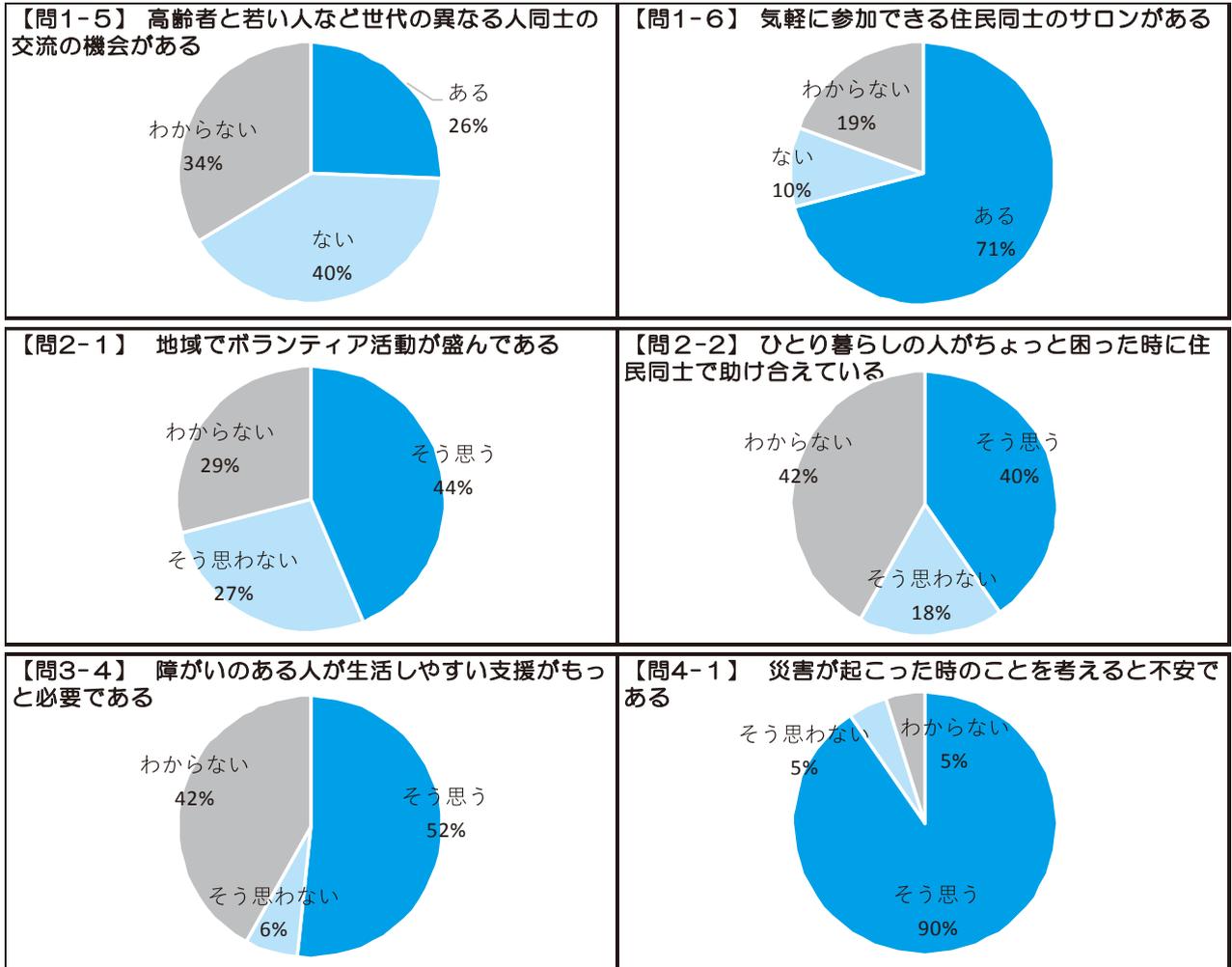


第4次の実践目標はこうして決まりました

南部地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	64人（男性25人/女性38人/無回答1人）
回答者年代	30代：3人、40代：7人、50代：13人、60～64歳：3人、 65～74歳：24人、75歳以上：13人

内容抜粋 無回答分は除いています



アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- ・作業部会のように、学生や子ども世代にも地域の問題を一緒に話し合う機会を持てると良い
- ・ボランティアについて具体的な情報を流す
- ・一人暮らしの人がつながれるよう、LINEグループをつくる
- ・早い時期から相続など身内で考えておく意識啓発
- ・自治区や班単位で避難訓練を計画する
- ・地域と行政で空き家情報の共有をする
- ・パトロール活動には今後、若い人の力が必要
- ・買い物の手助け「買い物隊」の結成
- ・子ども達に地元の良さを伝えながら育てる

作業部会で出された、南部の地域福祉活動の良いところ

- 祇園や地域の祭り、イベントがあり、子ども同士の交流や多世代間交流の機会になっている
- サロン、週一体操、給食ボランティアなどがしっかり活動している
- 自治委員、民生委員が地域に気を配ったり、一人暮らし高齢者などに関わっている
- 道路の掃除等を地域で協力して行っている
- ゴミ出しのルールはだいたい守れていると思う
- 公民館まつりの場で防災の取り組みを実施
- 高齢者世帯に防災ラジオ配布した自治区あり
- PTA が中心になり小学校の門松づくりを実施
- 下校時に地域の方によるさりげない見守りがある
- 見回り、夜回りをしている



様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



南部の社会資源

(R3 年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝 (住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです)

住民同士の交流・つながりの場	いきいきサロン (4)	サロンなんび (第 4 火曜・南部公民館) サロンはなみずき (第 4 金曜・南部まちなみ交流館) 小祝サロンひだまり (第 2 日曜・小祝老人憩いの家) 金谷鶴亀サロン (第 2 月曜・南部まちなみ交流館)
	週一体操教室 (4)	小祝元気体操クラブ (毎週金曜・小祝老人憩いの家) 南部健康体操クラブ (毎週金曜・南部公民館) かぼす体操くらぶ (毎週火曜・南部まちなみ交流館) 片端町倅会 (毎週水曜・片端町集会所)
ボランティア活動	給食ボランティア	城下町 (第 2 金曜・南部公民館) えびすの会 (第 3 金曜・南部まちなみ交流館) 金谷の会 (第 4 金曜・南部公民館) えみの会 (第 3 木曜・小祝老人憩いの家) さざ波会 (第 2 木曜・小祝老人憩いの家)
	その他	読み聞かせグループくすのき
住民型有償サービス	南部さくらサービス	
防災活動	自主防災組織、消防団、中津市防災士協議会南部部会	
防犯活動	防犯パトロール、少年警察ボランティア協議会、スクールガード	

関係機関が主催する交流の場・社会貢献活動

名称	主催	対象・内容
オレンジカフェむらかみ	地域包括支援センター 村上	認知症の方やその家族等が気軽に参加できる場
よりあ	南部地区生活支援センターディネーター	小祝地区などで、高齢者の閉じこもり予防として月 1 回開催

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター (高齢者相談支援センター) 村上		
民生委員による心配ごと相談窓口	毎月第 1 月曜	13:30 ~ 15:30	南部公民館
生活支援コーディネーターによる相談窓口	毎週水曜	13:00 ~ 16:30	臼木さんち

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口 (P.153 参照) にお問い合わせ下さい

北 部

スローガン

人の「輪」と「話」と「和」でつなぐ安心のススメ！

実践目標①若い世代や新しい仲間を取り込んだ顔の見える地域づくりに取り組もう！

実践目標②ネットワーク協議会を作ってつながいづくりをしよう！

実践目標③みんなで参加する安全・安心な北部をつくろう！



北部地区は福沢諭吉をはじめ、多くの偉人を育んだ歴史と文化が今も多く残っており、また、中津市を代表とする祭りの「中津祇園」もあり、歴史を重んじ、伝統を今に引き継いでいます。

アパート等の住宅が増える中、人口増加率も高く、小学校児童数も増えています。そのような中、公民館活動と北部小学校児童との交流行事もあり、世代間交流が行われています。また、いきいきサロンや、新たに週1回の体操教室を始めるなど、住民主体の取り組みが広がっています。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	8,015	8,652	9,022
世帯数	3,661	4,056	4,541
高齢化率	22.5%	23.4%	23.0%
一人暮らし高齢者	563	641	722
高齢者のみの世帯		1,471	1,513
0~18歳人口	1,509	1,703	1,663

※各年ともに9月30日時点のもの(中津市の統計データより)

実践目標と理由・効果

実践目標①

若い世代や新しい仲間を取り込んだ顔の見える地域づくりに取り組もう！

「子育て世代の親と顔を合わせる機会がない」「世代間でつきあいがないため情報が入ってこない」などの意見から、特に若い世代や新しい住民と関わる機会が少なく、接点がないことでお互いの情報を得られずにいることが問題点としてあがりました。昔からの行事や伝統的なお祭りへの参加者も年々減少傾向にある中、今以上に地域活動が先細りしてしまわないように、若い世代や新しい住民を地域活動に取り込み、今後の地域を共に考えていくことが必要です。多世代間で情報を共有し、顔の見える関係をつくることは、地域の絆を深め、希薄になった地域のつながりを再生することにつながります。

実践目標②

ネットワーク協議会を作ってつながりづくりをしよう！

3次計画の実践目標にある「防災ネットワーク」が北部地区ではすでに立ち上がっています。その取り組みを通じて、広く住民に意識啓発をしていくためには防災に限らず、防災を含めた北部地区全体の地域の活動や情報を共有する場や、取りまとめる組織の必要性も出てきました。今回、4次計画の策定を通じて、防災を含めた地域福祉全体のつながりとして、北部地区の様々な住民団体や学校などの関係団体がお互いに情報共有する「ネットワーク協議会」をつくり、顔の見える関係づくりを進めます。

実践目標③

みんなで参加する安全・安心な北部をつくろう！

「災害はいつどこでおきるかわからない」「高齢者が多く避難時が不安」「水害が特に心配」などの意見がでました。毎年決まって起こる冠水被害などから、防災意識の高い北部地区では、自治委員、民生委員、消防団、防災士をメンバーに自主防災組織を立ち上げ、「自分たちでやる」という意識のもと、継続した防災活動を目指しています。このような防災の動きと、地域全体のネットワークが連動することで、防災意識と共に、住民のひとり一人の意識がつながり、住民同士の和を広げていくことは、安全安心な地域づくりにつながります。

他にも出ましたこんな課題!!

一人暮らしの人を
支えよう

フードバンクを
周知する



障がいのある人も
安心して暮らせる
環境づくり

気軽に相談出来る
人・場所をつくろう

【北部】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
誰もが気軽に参加出来るサロンや井戸端会議の場をつくる					
地域デビューの場所づくり（行きやすい集まりやすい場所をつくる）					
いつでもだれでも参加できるという周知を行う					
参加しやすい町内行事で親子へ呼びかけをする					
地域ごとの集会所も地域の人との交流の場として活用する					
交流を深めるためのイベント（祭り等）を開催する					
他地域から入ってきた人達を巻き込んだ交流を考える					
世代間でお互いのことを知り、協力しあえる仕組みをつくる					
ネットワーク協議会をつくる					
地域の身近な情報を発信する情報誌を作る					
キーマン（お世話役）をつくる					
公民館をより広い世代の拠点にする（社会教育助成金の活用）					
見守り体制を見直す					
自治委員と民生委員の情報交流の場をつくる					
今ある情報誌を活用しながら、情報発信の方法や手段を考える					
ネットワーク協議会で移手段や防災の活動をテーマに考える					
有償サービスで支え合いにつなげる					
実際に想定しての訓練を繰り返し実施する					
自分たちで考える避難所、自分たちで行う訓練を実施する					
専門知識を持つ人を増やす（防災士など）					
要援護者の情報などを共有する					
日頃から声かけや見守りができる隣近所との関係をつくる					
参加しやすい、自主訓練しやすい体制をつくる （消火器等訓練用具の無料レンタルの利用）					
ワンランクアップした防災の取り組みを消防署と連携して行う					

心のバリアフリーで
手助け

生ゴミの出し方に
気をつける



キーマンの存在が
必要

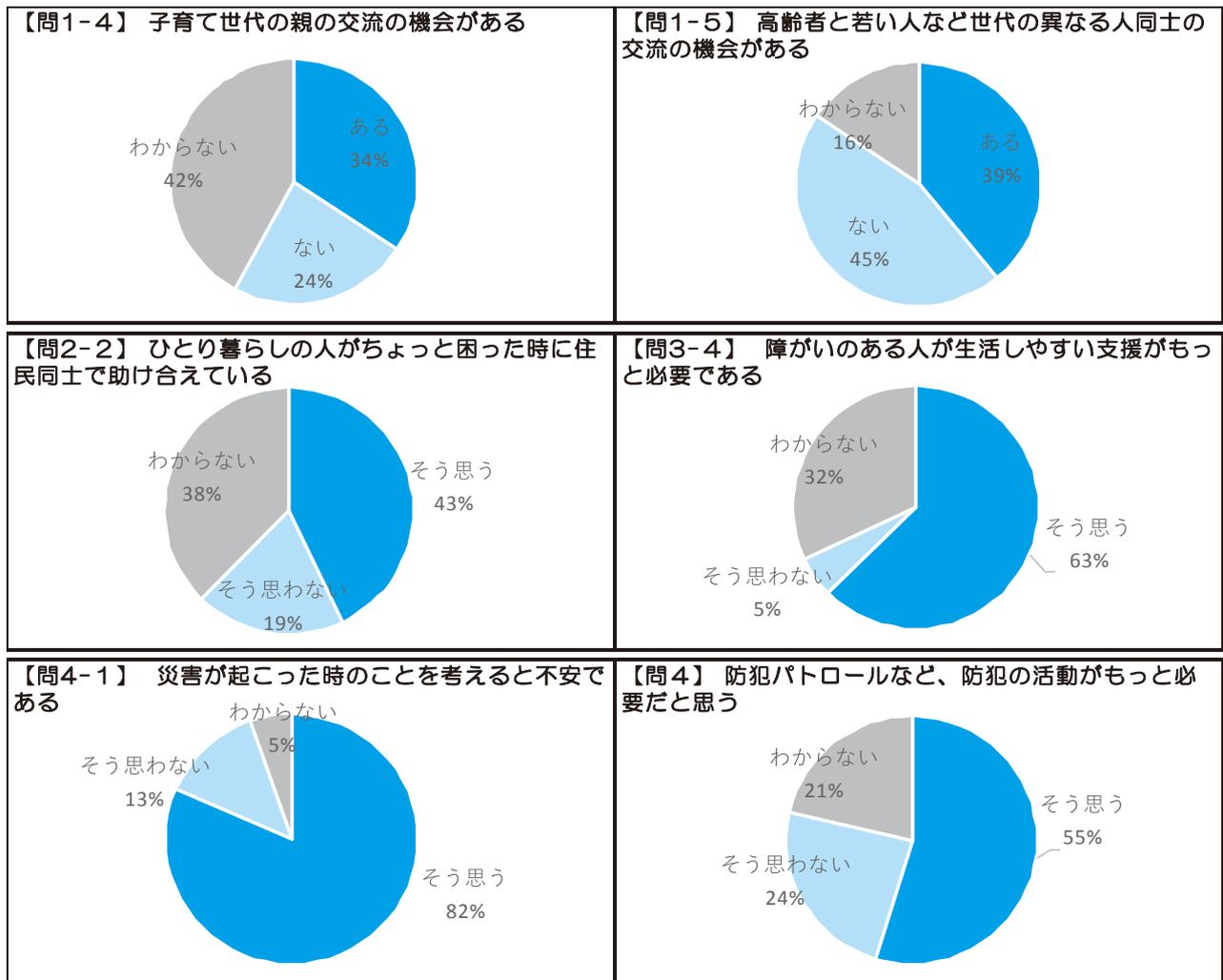
地域全体で
水路の清掃を考える

第4次の実践目標はこうして決まりました

北部地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	78人（男性36人/女性41人/無回答1人）
回答者年代	中学生・高校生：11人、20代：3人、30代：1人、40代：3人、50代：5人、60～64歳：7人、65～74歳：32人、75歳以上：15人

内容抜粋 無回答分は除いています



アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- ・地域の誰もが気軽に館長室に来てお茶を飲みながら話ができる場づくり
- ・障がいへの理解や対応の仕方を知る機会をつくる（勉強会などの開催）
- ・誰もが移動しやすい環境づくり
- ・相談できる場所や人についての情報提供をする
- ・地域で親睦会をする
- ・ひきこもりさせない地域づくり（気が付く地域）
- ・成年後見制度についての相談窓口をわかりやすくする
- ・気軽に何でも聞ける窓口を公民館などわかりやすい場所につくる
- ・警察から自治委員へ犯罪情報を提供してもらい、地域へ情報提供する



作業部会で出された、北部の地域福祉活動の良いところ

- ・子どもたちがクラブ活動（安心していける場所）に行くのをよく見かける
- ・お祭りや子供会が中心となり交流している（多世代で楽しめるイベントがある）
- ・近所同士良い関係（つながりがある）地区もある
- ・公民館活動やサロン、週一体操が交流の場や機会となっており参加する人も多い
- ・地域のお祭り（中津祇園）が多世代交流の機会となっている
- ・自治委員、民生委員を中心に、地域で気になる人に声をかけあっている
- ・月に1回防犯パトロールをおこなっている
- ・登下校時の見守り活動が交流の機会となっている
- ・自治会単位で避難訓練を実施している

様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



北部の社会資源

(R3年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝 (住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです)

住民同士の 交流・つながりの場	いきいきサロン (2)	北部校区なぎさサロン (毎月第3土曜・新大塚老人憩の家) よねやまセルフサロンふれ愛 (毎月第1/3土曜・米山老人憩の家)
	週一体操教室(4)	あじさいクラブ (毎週木曜・蛸瀬集会所) ※蛸瀬八坂神社境内 米山めだか体操クラブ (毎週火曜・米山老人憩の家) ゆきちげんきの会 (毎週金曜・北部集会所) さんさん体操クラブ (毎週水曜・北部公民館)
北部で活動する地域ボランティア	中津地区更生保護女性会北部校区 中津北部歩こう会	
住民型有償サービス	北部えがおサービス	
防災活動	北部校区自主防災会 中津市防災士協議会北部部会 消防団	
防犯活動	北部校区防犯パトロール隊	

関係機関が主催する交流の場・社会貢献活動

名称	主催	対象・内容
オレンジカフェむらかみ	地域包括支援センター 村上	認知症の方やその家族等が気軽に参加できる場
かきぜdeキッチン (子ども食堂)	いずみの園かきぜ サポートセンター	主に北部地区の方対象 毎月第3土曜日

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター (高齢者相談支援センター) 村上
民生児童委員による心配ごと相談窓口	毎月第2月曜 13:00 ~ 16:00 北部公民館

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口 (P.153参照) にお問い合わせ下さい

豊 田

スローガン

安心・安全・笑顔で結ぶ豊田の輪

実践目標①みんな一緒に集まれる場をつくろう！

実践目標②気楽に相談できる環境をつくろう！

実践目標③他人事じゃない！防災意識を高めよう！



豊田地区は中津市役所や中津駅、医療機関などの社会的な資源が豊富な地域であり、また公民館活動が盛んな地域でもあります。

以前からの住宅地が多いこともあり、高齢化が進む中、自治区単位の防災活動も行われており、頻繁に訓練を行っている地区もあります。

平成 22 年に発足した地域福祉ネットワーク協議会「生き生き・豊田」では、世代間交流などの支援を行なっています。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	8,084	7,939	8,067
世帯数	3,902	3,975	4,337
高齢化率	27.1%	30.5%	31.0%
一人暮らし高齢者	731	849	1,000
高齢者のみの世帯		1,784	1,905
0~18 歳人口	1,312	1,257	1,194

※各年ともに9月30日時点のもの(中津市の統計データより)

実践目標と理由・効果

実践目標①

みんな一緒に集まれる場をつくろう！

交流やつながりの面では、「高齢者が交流を深められる場所や機会が知られていない」「世代間交流の行事はあるが、若い世代や子どもの参加が少ない」「気軽に行けるサロンが少ない」などの意見がありました。既存の行事やイベントも含め、「誰もが気軽に参加できる場所」「生きがいを感じられる場所」を作っていくことで、地区内で様々な住民がつながるための“はじめの一歩”となる機会が増えていきます。

実践目標②

気楽に相談できる環境をつくろう！

「一人暮らしなどで身内に頼れる人がいない」「家族で抱え込んでしまって負担になっている」など、生活する上での課題を解決できずに困っている人がいるというこえがありました。様々なサービスがあるものの「どこに」「誰に」相談したらよいか分からないといった声もある中で、まずは身近な人同士で悩みを相談でき、必要に応じて適切な窓口につながるような環境づくりを進めることで、困りごとの解決につながっていきます。

実践目標③

他人事じゃない！防災意識を高めよう！

防災に関して、「避難行動がうまくできるか分からない」「高齢者など避難時に支援が必要な人がいる」などの意見が多くありました。企画する方も参加する方も「防災に対する意識を高めること」が大切であり、映像を見たり経験者の話を聞いたりできるような学習の機会を設け、災害を身近に捉えられる工夫をしながら防災意識の醸成を図ることで、いざという時に助け合える関係性がつくられていきます。

他にも出ましたこんな課題!!

親子で楽しむボラン
ティアを考えよう

コミュニケーション
の場づくり

地域のつながり
づくり（周囲の環境
づくり）をしよう

認知症の理解を深
めよう



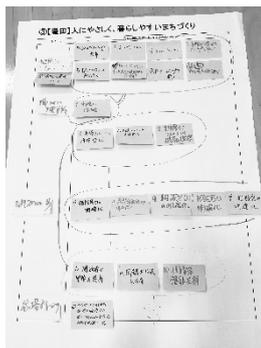
障がいに対する理
解を深めよう

【豊田】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
一人暮らしの高齢男性が気軽に参加できる場（サロン）					
世代、病気の有無にかかわらずフラットに交流できる場					
各々のスキルや特技などを出し合える場					
元気な高齢者ができることの交流					
親世代の興味をひくイベントの企画					
高齢者と子どもがふれあうスペースをつくる					
声かけの方法、コミュニケーションの取り方					
相談窓口の明確化					
支援する関係者が情報を共有する					
民生委員に地域の身近な相談役を担ってもらう					
有償サービスを豊田校区につくる					
困りごとを相談できない人に、訪問等で関わる取り組みの実施					
豊田地区でコーディネーターを見つける					
まずは研修等学びの機会を作り、意識を醸成していく					
訓練など防災の取り組みの周知方法を工夫する					
いざという時に近所で避難できる場所をつくる					
自主防災組織で年間の計画を立てる					
訓練に他の地区の人参加して、参考にしながら徐々に広げていく					
防災士を増やしていく（特に女性）					
災害時支援が必要な人に対して支援者を決めておく					
安全・安心に関する情報を共有する					
日ごろの訓練と備えをやっていく					

ゴミに関するルール
やマナーの周知を行
おう

地域の防犯体制を拡
充しよう



今ある行事や集まり
の場の情報発信をし
よう

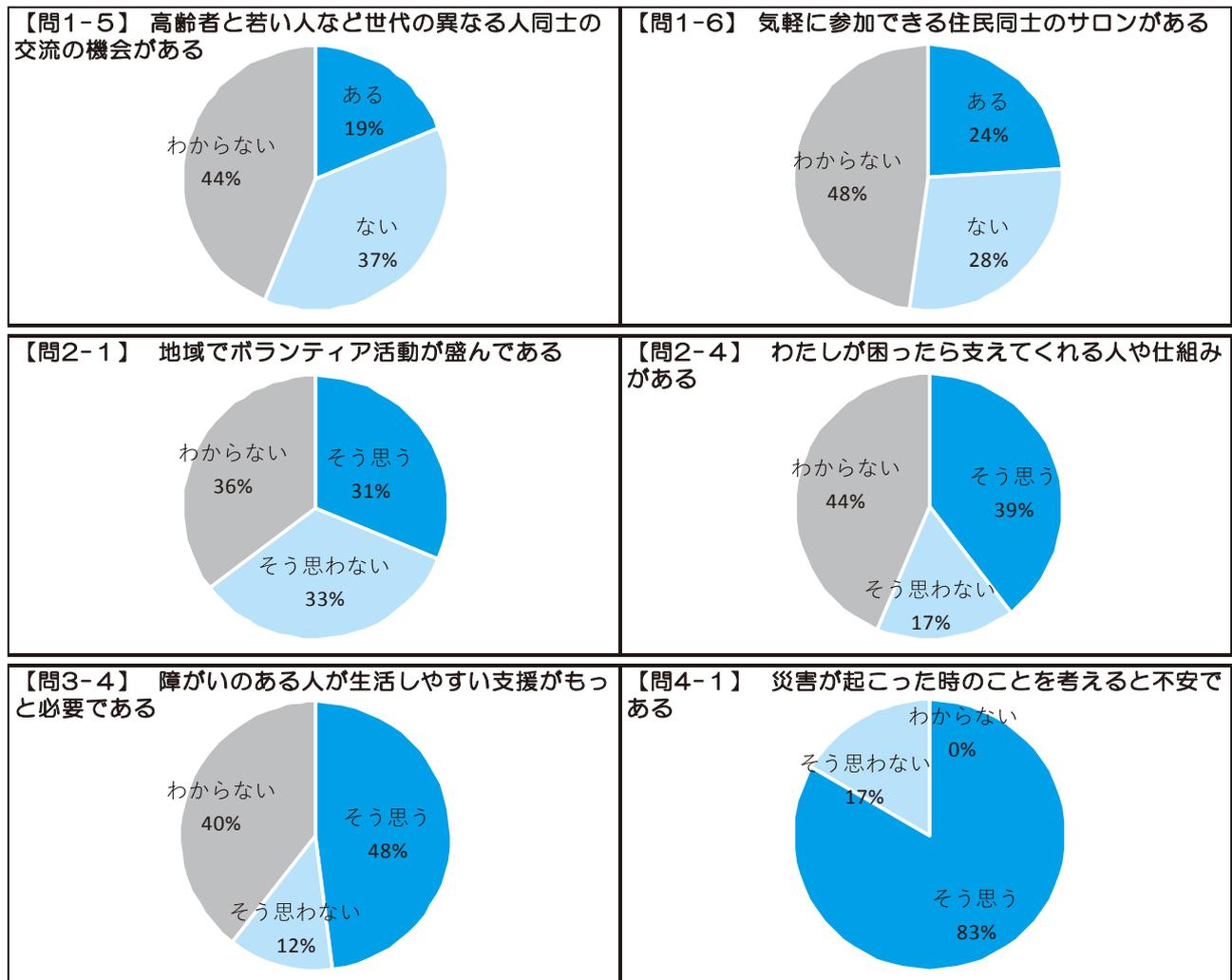
「みんな一緒に」と
いう気持ちを広げよ
う

第4次の実践目標はこうして決まりました

豊田地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	49人（男性16人/女性33人/無回答0人）
回答者年代	中学生・高校生：7人、30代：1人、40代：4人、50代：7人、60～64歳：11人、65～74歳：17人、75歳以上：2人

内容抜粋 無回答分は除いています



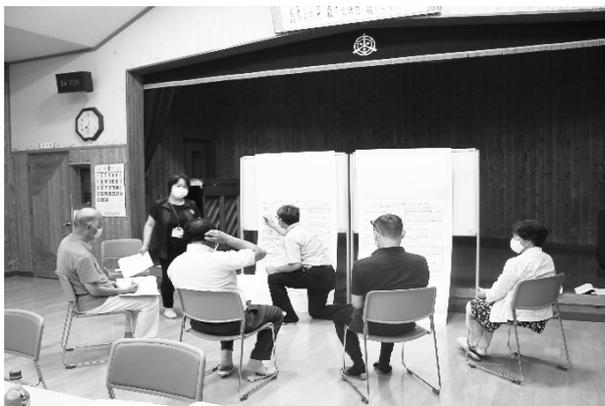
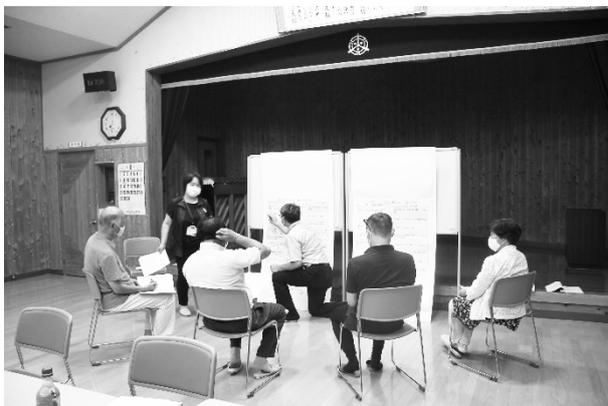
アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- ・「子どもたちを地域で育てる」という意識が広がるような取り組みができるとうい
- ・サロンが少ないので、増えるとよい
- ・若い人や子どもが気軽に参加できるボランティア活動を考える
- ・声かけの方法やコミュニケーションの取り方を考える
- ・当事者（本人）や家族が声を上げられる周囲の環境づくり
- ・支援する関係者が情報を共有する
- ・防災は日ごろの訓練と備えをやっていくことが必要（一人ひとりの避難経路や避難場所など）
- ・災害時支援が必要な人に対して支援者を決めておくとうい
- ・集積場所にゴミの出し方を分かりやすく貼るといい。外国語の標記も必要

作業部会で出された、豊田の地域福祉活動の良いところ

- ・ グラウンドゴルフや手芸といった、趣味などをみんなで楽しむ集まりがある
- ・ 地域のための活動を実際に行っている
- ・ 親身になって関わってくれる人がいる
- ・ 地域の役をしている人や専門職の方など頼れる人がいる
- ・ パトロールなどの見守り活動が活発に行なわれている

様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



豊田の社会資源

(R3年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝 (住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです)

住民同士の 交流・つな がりの場	地域サロン	地域サロン「福ろうの家」(毎週火・金曜日)
	週一体操教室(4)	上宮永元気クラブ(毎週木曜・市営上宮永住宅集会所) 中殿健康クラブ(毎週火曜・中殿貴船神社集会所) 下宮永健やか体操クラブ(毎週火曜・下宮永集会所) 上宮永週一体操教室(毎週木曜・豊田公民館)
ボランティ ア活動	給食ボランティア	福寿会(基本第1水曜・豊田公民館)
	豊田で活動する地 域ボランティア	豊田ひよっこ踊り愛好会
防災活動		中津市防災士協議会豊田部会、消防団
防犯活動		豊田校区自主防犯パトロール隊 年金パトロール(詐欺防止、年金月15日)

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相 談窓口	地域包括支援センター(高齢者相談支援センター)創生園
民生児童委員による心配ごと 相談窓口	毎月第2月曜 10:00 ~ 12:00 豊田公民館

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口(P.153参照)にお問い合わせ下さい

沖 代

スローガン

子どもの声が聞こえる あたたかみのある地域を目指して

実践目標①つながいづくりはご近所から始めよう！

実践目標②我が事として、防災を地域みんなで進めよう！

実践目標③気軽に相談できる関係を作ろう！



沖代地区は、かつて沖代平野として田園が広がっていましたが、現在は中津市内で最も高齢化率の低い新興住宅地域となっています。

沖代すすめに代表される地域ボランティア活動や、住民型有償サービス活動、地域福祉ネットワーク協議会等の取組みは市内で最初に始まったことから、「住民主体の地域づくり」の先駆的な活動として、県内外からも見学、研修に数多く訪れています。また、地域行事や公民館活動なども活発に行われており、地域の中での支え合い意識が徐々に広がってきています。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	7,951	8,131	8,332
世帯数	3,232	3,453	3,810
高齢化率	15.5%	19.3%	22.0%
一人暮らし高齢者	316	407	503
高齢者のみの世帯		1,111	1,278
0~18 歳人口	1,827	1,771	1,709

※各年ともに9月30日時点のもの(中津市の統計データより)

実践目標と理由・効果

実践目標①

つながいづくいはご近所から始めよう！

地域での行事や活動はたくさん行われていますが、「隣に住んでいる人を知らない」「活動の仲間はあるが、近くに住む知り合いはいない」などという声が多く、近所づきあいが希薄だと感じている人がいることが分かりました。

地域での行事や活動での関わりに加え、身近に住む人同士が関係性を築くことで日頃からの声かけができ、困った時には互いに助け合える地域へとつながります。また多くの人と関わり、お互いを知ることで、様々な相手に対する理解を深めることもできます。

実践目標②

我が事として、防災を地域みんなで進めよう！

「災害経験がないのでいざという時どうしたら良いかわからなくなると思う」「何も準備ができていないので心配」「避難所が機能するのか？」などという声が多く、災害時の対応に不安を感じている人がいることが分かりました。

大きな災害がなく防災について意識する機会が少ないため、防災を学び、考える機会を設けることが必要です。その防災の取り組みを通じ、“災害は誰もが自分自身に関係すること”という意識を一人一人が持つことで、沖代地区全体の防災意識・支え合い意識の向上につながります。

実践目標③

気軽に相談できる関係を作ろう！

「気になることがあるけれど、相談する場所が分からない」という声や、「誰に相談すれば良いのかわからず困ったことがある」などという生活の中での不安の声が多くありました。

相談窓口がわからず声をあげられない人も、まずは身近な人に相談できる環境があることで不安が解消され、その中で必要に応じて相談できる場があるという情報や、相談窓口について広く周知していくことで、安心して住み続けられる地域へとつながります。

他にも出ましたこんな課題!!

隣近所で気軽に支援
できる関係づくり

地域の情報を共有
しよう



障がいのある方への
理解を深めよう

認知症の勉強会を
開催しよう

【沖代】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
あらゆる年代との交流の場や、多世代が集まるイベントを開催する					
認知症になる前から関わり(交流)が持てる場所をつくる					
班ごとなど狭い範囲での会合を開催する					
普段から、ご近所同士での声かけなど交流おこなう					
見守りや公的な支援が関わっていない方を把握し、声かけをおこなう					
若い人にも興味を持ってもらえる内容で開催する					
子ども食堂等、困っている家庭をさりげなく支援できる「場」づくり					
学校、PTA から若い世代に働きかけ、地域行事等への参加を促す					
退職後の男性が気軽に行ける場、父親が集まる会のような場をつくる					
災害時や避難時などに、電話や声かけをおこなう					
避難所の場所を改めて周知する					
避難所体験をおこなう					
高齢者や障がいのある方の現状を知り、関わり方等学ぶ機会をもつ					
自治委員や民生委員が意見交換する場を設ける					
ひきこもりの人やその家族が、身近な人へ相談できる環境づくり					
家族や近所で困っている人のことを、身近に相談できる場づくり					
誰もがみえる所に掲示板を設置し、地域の情報を広報する					
自治会活動の良さを広めていく					
広報、情報発信を行う（口コミや直接の誘いが効果的）					
相談窓口の周知をし、相談のしくみづくりをおこなう					

ゴミのマナーを周知しよう

ボランティア活動の周知とリーダーの育成

誰でも行ける場づくり

病院受診や買い物に関する情報提供を行おう

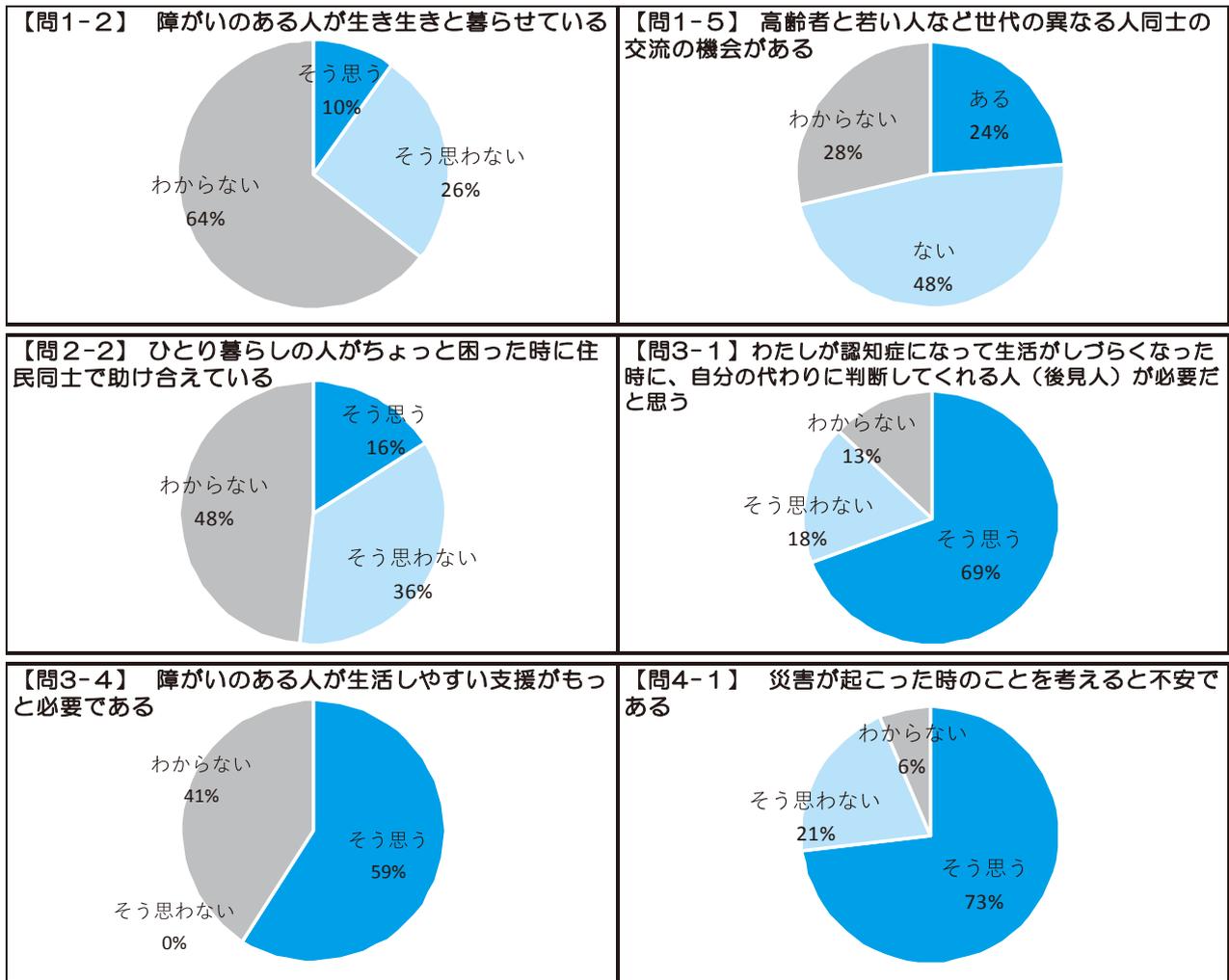


第4次の実践目標はこうして決まりました

沖代地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	63人（男性28人/女性35人/無回答0人）
回答者年代	中学生・高校生：7人、20代：1人、30代：4人、40代：5人、50代：11人、60～64歳：3人、65～74歳：18人、75歳以上：14人

内容抜粋 無回答分は除いています



アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- ・地域で子育てをしていけるような体制づくりが必要
- ・共通した活動でのつながりが必要（ママさんバレーなど）
- ・困った時に、連絡できる相談先をつくる
- ・ボランティアなどを主導するリーダーの育成が必要
- ・空き家の雑草などは市の環境政策課へ相談できることを周知する
- ・障がい当事者の声が必要。共に具体的に出来ることを考えられる場づくり
- ・趣味（ゲームなど）を通じてひきこもりの人と近づくきっかけをつくる
- ・できるだけ早い年齢での支援が大切
- ・ひきこもりの人の生き方に共感するなど、メンタル面への支援が必要

作業部会で出された、沖代地区の良いところ

- ・近所付き合いが良好で、とても住みやすい
- ・皆協力的で仲も良く、地区によってまとまっている
- ・良い所はしっかりあいさつができる所
- ・区長さんがとても良く活動しているのが良い所
- ・少し高齢化していますが、元気な人が活躍している
- ・地域行事を通して世代間交流をしている
- ・公民館での活動、イベントが充実している
- ・大きな事件などなく、危険な印象がない地域
- ・地域ボランティア活動している人やグループがある
- ・防犯活動や見守り隊、公民館活動、清掃活動、サロン活動など様々な活動が行われている
- ・すすめの家など皆で集まって活動するグループもありボランティア活動が盛んな地域
- ・地域で一人暮らしの人に普段から声かけをする環境にあり、気にかけている
- ・一人で外出ができない人などに、どんぐりサービスが付き添い支援をおこなっている



様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



沖代の社会資源

(R3年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝（住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです）

住民同士の 交流・つながりの場	地域サロン	地域サロン「すすめの家」 (毎週火、金曜・沖代寄合い所すすめの家)
	広域型いきいきサロン	地域サロンのじこ(毎週木曜・沖代公民館)
	いきいきサロン	サロンひまわりの種 (毎月1回日曜・沖代寄合い所すすめの家)
	週一体操教室	沖代中一クラブ(毎週水曜・まなびん館)
	その他	のぼたんの会(年4回・団地8班会議) ラジオ体操(豊陽公園、沖代公民館)
ボランティア活動	給食ボランティア	秋桜子(第1水曜・沖代公民館)
	沖代で活動する地域ボランティア	地域ボランティア沖代すすめ演芸部 沖代すすめ手芸部シュシュ 沖代小読み聞かせグループ オルゴール
住民型有償サービス		沖代どんぐりサービス
防災活動		中津市防災士協議会沖代部会、消防団
防犯活動		防犯パトロール隊、交通安全沖代女性部、パトロール犬

関係機関主催の交流の場・社会貢献活動

名称	主催	対象・内容
よりあ	沖代地区生活支援コーディネーター	高齢や介護について学ぶ場として開催(沖代寄合い所すすめの家)

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター(高齢者相談支援センター) 創生園
民生児童委員による心配ごと相談窓口	毎月第1月曜 12:30 ~ 15:00 沖代公民館
生活支援コーディネーターによる相談窓口	毎週木曜 15:00 ~ 16:30 沖代寄合い所すすめの家
障がい児・者、高齢者に関する相談窓口	相談支援事業所 たいじゅ

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口(P.153参照)にお問い合わせ下さい

小 楠

スローガン

つながいと見守いのまち小楠
～元気で明るい小楠を目指そう～

実践目標①～誰一人取り残さない～

くい返し、くいかえし防災の情報共有をしよう

実践目標②～誰もほっとかない～

交流の場づくり、人づくりで仲間をつくろう

実践目標③～誰もが暮らしやすい～

相談しやすい環境づくりをしよう



小楠地区は医療機関や店舗もあることから生活面の便利さを感じている人が多い地域です。

3次計画策定後の2017（H29）年には地域福祉ネットワーク協議会「OGUSU 友愛 2017」が発足し、地区内の活動団体や関係機関とが集まり、情報共有する場ができてからは、住民型有償サービス、地域サロンをはじめ住民福祉活動が活発になっています。

海岸に近い地域では防災意識も高く、訓練や仕組みづくりに積極的に取り組んでいます。

	2011（H23）年	2016（H28）年	2021（R3）年
人口	8,555	8,625	8,626
世帯数	3,803	4,075	4,266
高齢化率	19.5%	23.9%	27.0%
一人暮らし高齢者	473	610	743
高齢者のみの世帯		1,473	1,650
0～18歳人口	1,659	1,559	1,519

※各年ともに9月30日時点のもの（中津市の統計データより）

実践目標と設定理由・効果

実践目標①

～誰一人取り残さない～

くい返し、くいかえし防災の情報共有をしよう

「避難所の備蓄ってどうなってるんだろう」「避難場所を知らない人が多い」「普段なかなか話す機会がない」など、「危機意識はあっても知識や情報に個人差が大きいのではないか？」という意見が多くありました。

さらに、同じ小楠地区内でも、住んでいる地域により意識に差があることから、災害時にだれ一人取り残さないためにも、日常から話したり、交流につながるような訓練の機会をもつことで自主防災組織機能、要援護者の把握、防災を通じた地域づくりにつながります。

実践目標②

～誰もほっとかない～

交流の場づくり、人づくりで仲間をつくろう

「昔はお宮を利用しての行事がたくさんあった」「核家族化が進み、昔ながらの地域とのつながりがなくなっている」など、日常的な住民同士のつながりが希薄になっていることへの心配な声が多くありました。

実践目標①にある防災ともつながりますが、日常から住民が集う場をつくっていくことが大切です。子どもの意見も聞いたり、高齢者が先生になったり、みんなでラジオ体操したり等、多様な場づくりをすることで地域活動への参加の促進にもつながります。

実践目標③

～誰もが暮らしやすい～

相談しやすい環境づくりをしよう

「自分で SOS を出せない人がいるのではないか」「相談先がわからない」「情報が少ない」など、何か困った時にどこに・誰に相談したらよいのかについて不安を抱えている現状についての意見がありました。

すぐに解決できない悩みなどもあることから、気長に関わっていくことが大切であり、また小さな単位で相談できる人がいると安心に繋がり、地域全体がやさしく暮らしやすくなることにつながります。

他にも出ましたこんな課題 !!

団体同士の横のつながりづくり

高齢者の見守り・関係づくり

子どもが生き生きできる環境づくり

小さな単位のネットワークづくり

気持ちのおすそ分けをする関係づくり



【小楠】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
小さな単位（向こう三軒両隣）での助け合える関係づくりをする					
地域で繰り返し、防災訓練や避難訓練を実施する					
水害時の備えとして避難場所など正しい情報提供をする					
備蓄について周知する					
自主防災組織の再構築（自治会単位で助け合えるきっかけづくり）					
子どもの気持ちを尊重した参加しやすい世代間交流の場づくり					
お宮などを利用し、祭りだけでなく体操や昔遊びなどで交流する					
子ども、高齢者、障がい者との交流の機会を増やす					
悩んでいる子育て世代との交流を増やす					
一人暮らしが増える中、地域の「世話焼きさん」を増やす					
民生委員、自治委員、住民が連携して見守る					
サロンや有償などの住民福祉活動も活用し、つながりづくりをする					
気長に寄り添い、本人から相談しやすい環境づくりを進める					
小さな単位で周りが気づき、本人に働きかける仕組みづくりをする					
相談窓口の情報収集・周知をし、相談しやすい環境づくりをする					
ひきこもりの当事者やその家族に継続的に情報発信をする					
サロンなどの集まりで困っていること・人などの情報共有する					

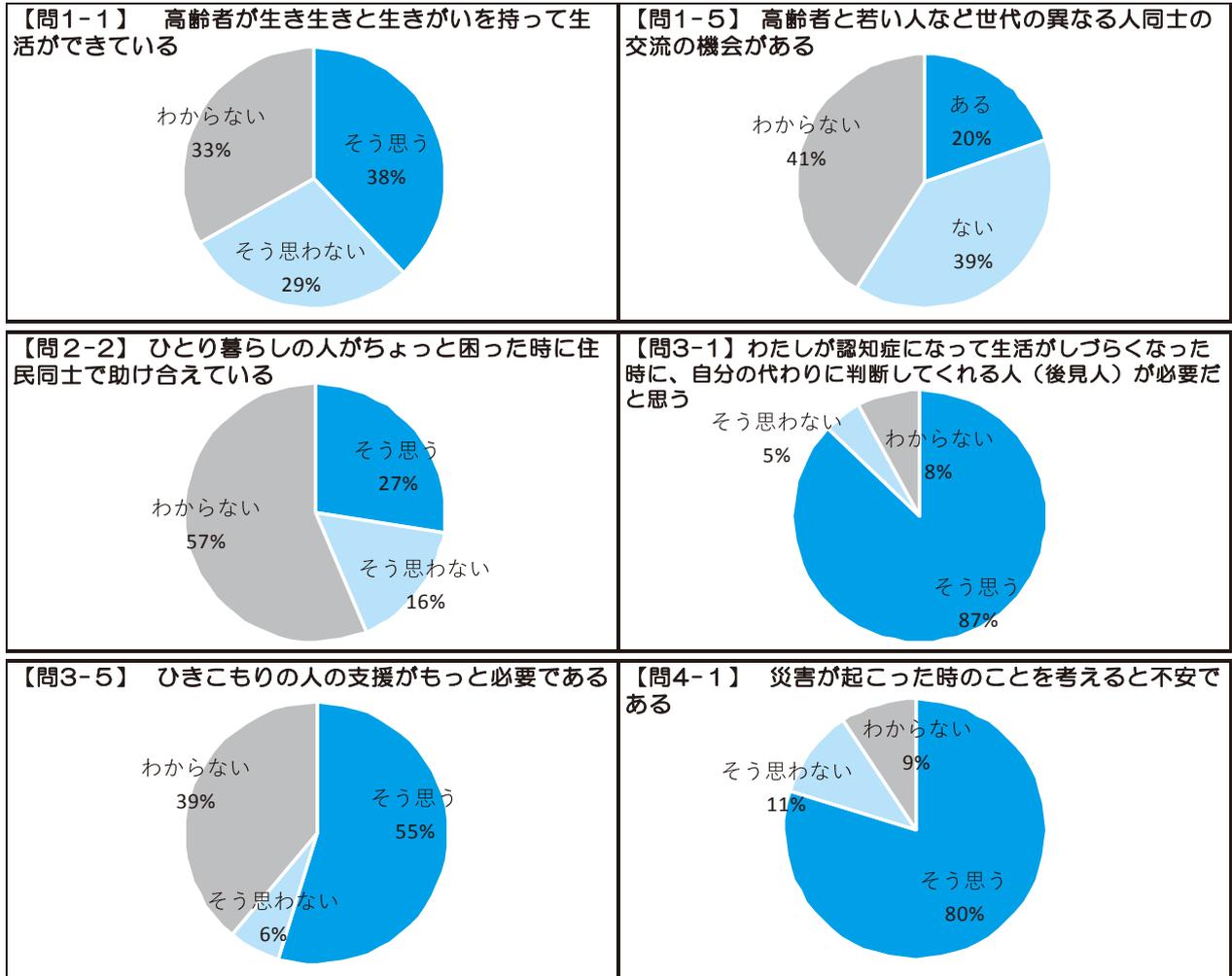


第4次の実践目標はこうして決まりました

小楠地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	64人（男性20人/女性43人/無回答1人）
回答者年代	中学生・高校生：11人、20代：1人、30代：8人、40代：10人、50代：9人、60～64歳：4人、65～74歳：15人、75歳以上：6人

内容抜粋 無回答分は除いています



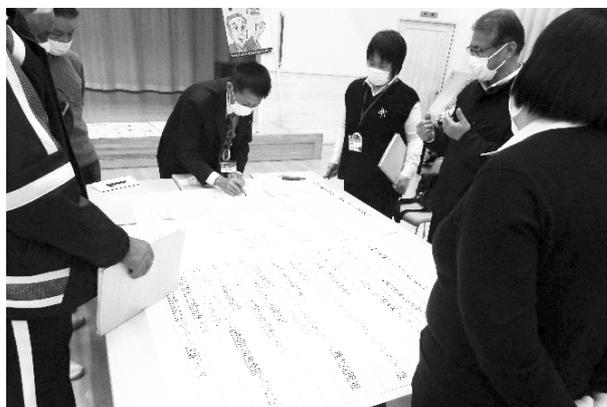
アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- ・高齢者や障がい者関わらず、共通の趣味で交流する
- ・閉じこもりがちな人へのこまめな声掛け
- ・自分にとって豊かな老後を一人ひとりが考えること
- ・子どもの気持ちを尊重した、子どもが参加しやすい世代間交流が必要
- ・ボランティア活動や相談先などの情報発信の工夫(市報、回覧板、コミュニティだより、SNS 等)
- ・地域で認知症の人を支援するには、家族が認知症であることを周囲に言える環境づくり
- ・認知症予防のための「軽い運動、畑仕事、作業」等の大切さの理解を広げる
- ・朝昼夜起こりうる災害の種類を想定した避難訓練
- ・空き家の情報共有
- ・防犯パトロールなど若い人に担ってもらえるよう世代交代を考える(人材確保)

作業部会で出された、小楠の地域福祉活動の良いところ

- ・ 高齢者間で助け合い、子供の見守りやパトロール活動をしている
- ・ 毎日のように地域の人や保護者の登下校時の見守りがある（特に東浜、新田地区）
- ・ 子ども連絡所の再整備を行った。抑止力にはなる
- ・ 日常生活の中での見守りをしている人もいる
- ・ サロンの活動が活発に行われていると感じる
- ・ 一人暮らしの人を支えるなど地域住民同士の助け合いがある
- ・ 民生委員の見守りがある
- ・ 小楠さんくすサービスがある
- ・ ゴミ出しのルールは、だいたい守れている
- ・ ゴミの分別に対する意識が高くなった
- ・ 地域差はあるが、土嚢を準備するなど防災の意識はある

様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



小楠の社会資源

(R3年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝 (住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです)

住民同士の 交流・つながりの場	地域サロン (2)	こまどりの家 (毎週土曜日) 地域サロン百歳 (ももとせ) (毎週水曜日)
	週一体操教室 (2)	楠くすクラブ (毎週木曜・小楠コミュニティーセンター) 一ツ松にここにこ健康クラブ (毎週金曜・一ツ松集会所)
ボランティア活動	給食ボランティア	あやめ会 (第2水曜・西大新田集会所) わらび会 (第3木曜・東大新田集会所) ひがしはま (第2金曜・東浜集会所) うしがみ (第2木曜・牛神集会所) 一ツ松 (第1木曜・一ツ松集会所)
	小楠で活動する地域ボランティア	朝の読み聞かせグループ「クレヨン」(小楠小)
住民型有償サービス	小楠さんくすサービス	
防災活動	中津市防災士協議会小楠部会、消防団	
防犯活動	防犯パトロール	

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター (高齢者相談支援センター) 三光園
民生委員による心配ごと相談窓口	毎月第3金曜 13:00 ~ 16:00 小楠コミュニティーセンター

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口 (P.153参照) にお問い合わせ下さい

鶴 居

スローガン

支えあい・ふれあい・助けあいでつながる 地域のきずなづくり

実践目標①助けあいの気持ちでつながる防災の取り組みを進めよう!!

実践目標②ふれあいを大切にした小さい単位のコミュニティづくりをしよう!!

実践目標③困っている人の SOS をキャッチできる支えあいの仕組みをつくろう!!



鶴居地区は沖代平野の水源である三口大井手堰を擁し、豊かな土地柄から稲作や野菜栽培が盛んな地域です。また、中津を代表する祭の一つである「鶴市花傘鉾祭」が開催されており、祭を通じて世代を超えたつながりが生まれている地域でもあります。

子ども食堂や見守り活動といった小地域福祉活動も徐々に広がっており、支え合いの地域づくりが進められています。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	8,428	8,519	8,461
世帯数	3,553	3,727	3,903
高齢化率	22.9%	26.3%	28.0%
一人暮らし高齢者	568	658	705
高齢者のみの世帯		1,623	1,664
0~18 歳人口	1,673	1,697	1,626

※各年ともに9月30日時点のもの(中津市の統計データより)

実践目標と理由・効果

実践目標①

防災の取り組みを進めよう！

アンケートや作業部会を通じて、「災害時どう行動すればよいか分からない」「避難場所について不安である」「支援が必要な方の避難が心配」など、防災に対する関心が高いことが分かりました。今ある組織や仕組みを継続・活性化させ、取り組みを通じて住民同士が繋がっていくことが大切と捉え、防災についての学習や訓練などの機会を設け、地域内の連携を深めながら取り組みを進めていくことで、もしもの時にも助けあえる災害に強い地域づくりにつながっていきます。

実践目標②

小さい単位のコミュニティづくりをしよう！

「自治会や老人会、子ども会への入会が減っている」「地域によっては交流の機会がない」「お世話役になる人がいない」など地域内のつながりに関する意見が多く聞かれました。自治区内などの小さな単位で気軽に参加できるような機会を創出することで、つながりを深めるきっかけができます。また、多くの人に参加し交流を深めていく中で、活動の担い手となる人も増やしていくことで、コミュニティの活性化と行事の継続化が図れます。

実践目標③

SOS をキャッチできる支えあいの仕組みをつくろう！

アンケートでは「困った時にどこに（誰に）相談すればいいか分からない」といった意見があり、また地域の中には様々な生活課題を抱えている方がいる現状もあります。身近な所に相談相手となる支援者がいることで、抱え込んでいる困りごとを聞いて、適切な相談窓口につなぐことができます。専門機関と連携しながら、困りごとをキャッチできる仕組みを作ることで、お互いに支えあえる関係が生まれてきます。

他にも出ましたこんな課題!!

既存の会（団体）の
連携を強化しよう

認知症や発達障がい
への理解を深めよう



ボランティア活動
へのきっかけづく
りをしよう

地域の様々な団体
が協力するネット
ワークをつくろう

【鶴居】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
ハザードマップの解説と周知のための勉強会の実施					
隣近所などのコミュニティでの支え合いの仕組みづくり（声をかけあ う仕組み、組織図作成等）					
小さいコミュニティで訓練や話し合いの実施					
災害の種類に応じた避難場所を決める					
災害が起きた瞬間の対応への仕組みづくり					
定期的に訓練を実施する（参加賞など訓練に参加したくなる工夫）					
防災をきっかけとして若い人の協力が得られる仕組みづくり					
自治会間（区長間）での情報共有					
ボランティア活動への参加を促すために関わるきっかけづくり					
すでに行われている活動を自治会等を通じて広く知らせる					
自治会加入についてメリットを具体化する					
地域サロンや週一体操教室を立ち上げる					
文化的行事や伝統行事（お接待・盆踊りなど）を継続発展していく					
自治会や地域の団体を活性化し、他者とのつながりをつくる					
自治会、老人会、民生委員等の連携					
気になる人に相談窓口の周知をする					
SOS を発信できない人をキャッチする仕組みをつくる					
困りごとに対して、民生委員や老人会の取り組みを通じて行動する					
認知症や発達障がいに関する研修会への参加呼びかけ					
コミュニティーセンター等での集まりの場への参加呼びかけ					
身近な立場での支援者（相談相手）となれる人を増やす					
地域の様々な団体が協力する（ネットワークをつくる）					

成年後見制度への
理解を深めよう

高齢者・障がい者へ
の声かけをしよう



危険箇所などを記
した交通安全マッ
プを作ろう

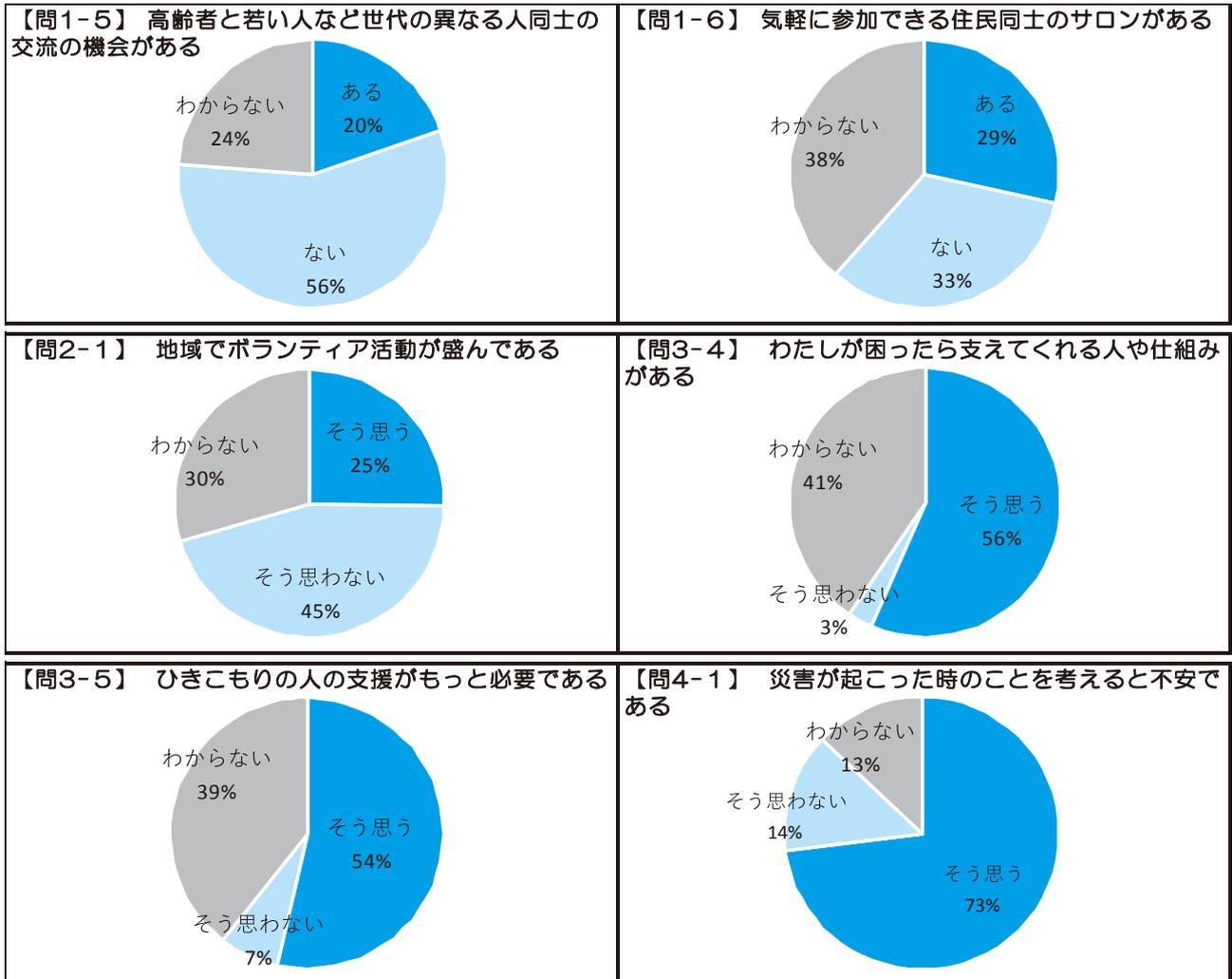
自治会加入の促進
を図ろう

第4次の実践目標はこうして決まりました

鶴居地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	71人（男性34人/女性35人/無回答2人）
回答者年代	中学生・高校生：4人、30代：7人、40代：10人、50代：2人、60～64歳：6人、65～74歳：24人、75歳以上：13人

内容抜粋 無回答分は除いています



アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- ・地域の中で声かけができるとうい
- ・ボランティア活動への参加を促すため関わるきっかけづくりが必要
- ・地域の様々な団体が協力する
- ・認知症の方の対応を学ぶ取り組みが必要
- ・市民後見人についての広報が必要
- ・身近な立場での支援者の存在が大切
- ・定期的な防災訓練の実施
- ・有償サービスなど、地域内での助け合いが必要

作業部会で出された、鶴居の地域福祉活動の良いところ

- 地域的に住みよい所である
- 地区によっては交流行事が活発に行なわれている
- 色々な活動に対して、お願いすれば協力してくれる人も多い
- 自主防災組織を地域で作っている
- ゴミ会議を開いてゴミ出しマナー向上に努めている

様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



鶴居の社会資源

(R3年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝（住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです）

住民同士の交流・つながりの場	いきいきサロン（3）	万田きずなの会（第3月曜・万田公民館） 湯屋仲良しクラブ（第2、4木曜・湯屋公民館） 南高瀬スマイルサロン（第3土曜・南高瀬公民館）
	こども食堂	鶴居こいのぼり（第1土曜・鶴居コミュニティーセンター）
	週一体操教室（3）	万田めじろん体操教室（毎週水曜・万田公民館） 高瀬太陽クラブ（毎週木曜・鶴居文化センター） 上ノ原健康クラブ（毎週火曜・上ノ原区民館）
	その他	下永添を元気にする会
ボランティア活動	給食ボランティア	ねぎの会（第4水曜・鶴居コミュニティーセンター） 人参クラブ（第3土曜・南高瀬公民館） もみじ（第4木曜・万田公民館）
	鶴居で活動する地域ボランティア	胡桃（読み聞かせグループ） 中津マジックの会 中津地区更生保護女性会鶴居校区
防災活動	中津市防災士協議会鶴居部会、消防団	
防犯活動	地区防犯パトロール隊 交通安全パトロール隊	
その他	鶴居校区青少年健全育成会（ミニ集会）	

関係機関主催の交流の場・社会貢献活動

名称	主催	対象・内容
オレンジカフェ三歩	特別養護老人ホーム 悠久の里	認知症の方やその家族等が気軽に参加できる場

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター（高齢者相談支援センター）三光園
民生児童委員による心配ごと相談窓口	毎月第1土曜 11:00～15:00 鶴居コミュニティーセンター

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口（P.153参照）にお問い合わせ下さい

大 幡

スローガン

“向こう三軒両どなり”支えられたり 支えたい
住みたくなる町 大幡

実践目標①あいさつ運動からはじまる近隣のつながりづくり

実践目標②みんなが集う楽しいまちづくり

実践目標③防災に対する住民の意識づくり



大幡地区は、市内でも人口や児童数が多い地域で、2ヶ所の児童養護施設もあります。地形的には高台に位置し、ダイハツ九州アリーナは、災害時の大規模な避難所としての役割を担う場所になっています。

住民福祉活動では、以前より、給食ボランティアや住民型有償サービス活動があり、最近では週一体操の取り組みも盛んです。

また、平成20年より大幡の地域福祉を推進する組織として、地域福祉ネットワーク協議会「大幡福祉の会“輪”」が、社会資源調査や情報発信を行なっています。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	8,779	8,860	9,070
世帯数	3,741	3,837	4,131
高齢化率	21.9%	25.8%	28.0%
一人暮らし高齢者	666	753	860
高齢者のみの世帯		1,686	1,847
0~18歳人口	1,922	1,956	1,905

※各年ともに9月30日時点のもの（中津市の統計データより）

実践目標と理由・効果

実践目標①

あいさつ運動からはじまる近隣のつながりづくり

「高齢者や子ども、親世代など住民同士が交流する機会や場がない」「人との関わりや外出する機会が持てず、家に閉じこもりがちで寂しさ（孤独感）を感じている人がいる」などの問題点から、近隣に住んでいながら住民同士のつながりが年々希薄になり、新しく大幡の住民になる人も増える中、住民同士のコミュニケーションが不足しているという意見があがりました。身近なつながりづくりには、普段の暮らしの中で、住民同士がお互いに気にかけて意識を持つことが大切です。お互いに気にかけて助け合う関係づくりは、住民同士の連帯感を高めることにつながります。

実践目標②

みんなが集う楽しいまちづくり

「お祭りや盆踊りがなくなった地域がある」「子どもは習い事、親は共働きで忙しいため交流の機会が持てない」などの問題点が上がりました。多世代で楽しめ、みんなが集う場と言えば、昔からのお祭り（仲秋祭）や盆踊りでしたが、年々参加者が減り、行事が尻すぼみになっています。そんな地域を皆で盛り上げていくためには、大幡地区の住民みんなが笑顔で集い、楽しめる場が必要です。多世代でつくる交流の場は、希薄になっている住民同士のつながりづくりにもつながります。

実践目標③

防災に対する住民の意識づくり

「大きな災害は起きないと思っている人がいる。」
大きな災害の経験がない故の安心感が、必要な備えや防災意識を持つことを邪魔し、訓練を知らせる回覧や広報に対して、関心がない人が多いことが問題として上がりました。そのような意識を変えていくためには、防災に必要な情報共有をしっかりと行い、まずは防災に関する意識づくりを行うことが大切です。他人事でなく、大幡地区の住民みんなが危機感を持ち、防災に関する意識が高まれば、災害が起こった時に、住民同士が助け合える関係づくりにつながります。

他にも出ましたこんな課題 !!

ボランティア活動の情報発信
(若い世代へ伝えたい)

防犯パトロールの
人材確保

ボランティア活動
への参加促進
(若い世代に参加
してほしい)

何をするにも
リーダーが必要!



【大幡】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
あいさつ運動からはじめる					
住民同士で相談しやすい方法や場所をつくる					
交流する機会が増えるように若い世代への呼びかけ方法を工夫する					
子ども会や自治会に入るメリットをはっきりさせる					
家に独りで閉じこもりがちな高齢者に老人会への加入を促す					
コミュニティセンターまつりを盛り上げる					
若い世代が集まりやすい行事に高齢者も誘う（参加してもらう）					
昔からある地域の行事の盆踊りを大幡全体で開催する					
子ども中心のイベントを開催する					
門松、しめ縄作りなど伝統行事をPRする					
若い世代へのボランティアの関心・動機付けを行う					
世話人が増えるように活動目的などについて意見交換する場を作る					
趣味を活かした活動をつくる					
男性が気軽に集える場をつくる					
歩いていけるサロン→班単位でサロンを開催する					
訓練は自治区よりも小さい班や講合の単位でやる					
実際あった大きな災害の情報を発信し、意識付けをする					
今ある避難訓練を続けていく（自治区、班、自主防災組織 主催）					
自治区で訓練を持ち回り開催する					
大幡全域での訓練を実施する					
目的や内容をしっかり決めて訓練を実施する					
実際の避難場所であるダイハツアリーナへの避難訓練を実施する					

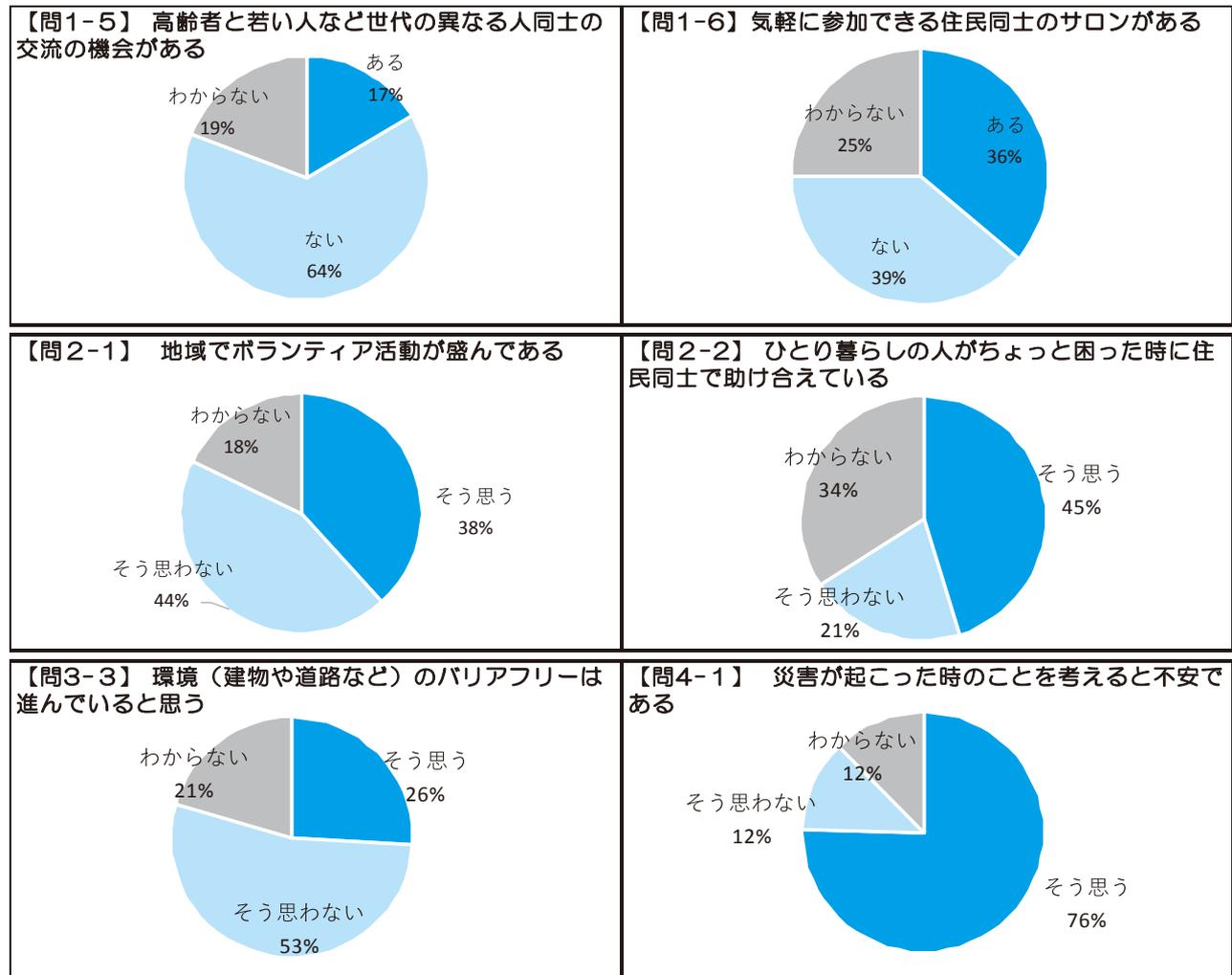


第4次の実践目標はこうして決まりました

大幡地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	74人（男性46人/女性27人/無回答1人）
回答者年代	中学生・高校生：6人、20代：1人、30代：1人、40代：1人、50代：1人、60～64歳：3人、65～74歳：32人、75歳以上：28人

内容抜粋 無回答分は除いています



アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

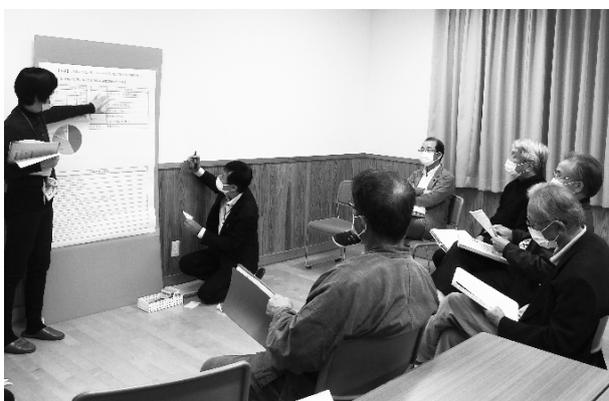
- ・障がい者についてもっと知る機会、障がい者の気持ちをうまく伝えられる場が必要
- ・ボランティアの活動内容を知ってもらうことが大切。その上で、ボランティアを募集する
- ・困った時にサインが気軽に出せる、助け合える関係をつくる
- ・認知症への対応を学べる場、対応の勉強の機会をつくる
- ・ひきこもりの人とその家族との交流を含めた実態把握が必要
- ・防犯パトロールの活動回数を増やす
- ・空き家の持ち主への対応が必要
- ・全てのゴミステーションにゴミの出し方の表示をする
- ・高齢者向けにインターネットやスマートフォンを学ぶ場を作り情報が得られやすくする
- ・近所の方が買い物などに行く時に誘い合う取り組みができると良い

作業部会で出された、大幡の地域福祉活動の良いところ

- 老人会やグランドゴルフ、公民館活動が交流の場や機会となっている
- 週一体操、サロン、給食ボランティアなどがしっかり活動している
- 自治委員、民生委員を中心に、地域で気になる人に声をかけあっている
- 自主防災組織がある
- 自治区、班、自主防災組織で避難訓練を実施している
- ふれ合い清掃活動などにたくさんの人が参加している
- 防犯パトロールや登下校時に見守り活動をしている
- 老人会と近くのこども園が交流している
- 子育て支援センターこもんがある



様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



大幡の社会資源

(R3年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝 (住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです)

住民同士の交流・つながりの場	いきいきサロン(2)	黒水ふれあいいいきいきサロン(月1回・黒水生活改善センター) 榊原元気クラブ(毎月25日・榊原公民館)
	週一体操教室(5)	中原のぞみ会週一体操(毎週木曜・中原公民館) 大悟法週一健康体操(毎週金曜・大悟法老人憩いの家) 稲尾健康体操クラブ(毎週火曜・稲尾集会所) 大幡元気・いきいきく週一体操(毎週水曜・大幡コミュニティセンター) 八幡ほがらか健康クラブ(毎週水曜・八幡町集会所)
ボランティア活動	給食ボランティア	ひまわりの会(第2・4木曜・八幡町集会所) さくら(第4水曜・大貞公園集会所) みすみ会(第3水曜・大悟法老人憩いの家)
住民型有償サービス		大幡まこもサービス
防災活動		自主防災組織、中津市防災士協議会大幡部会、消防団
防犯活動		防犯パトロール協議会 自主安全協会パトロール隊

関係機関主催の交流の場・社会貢献活動

名称	主催	対象・内容
オレンジカフェ	地域包括支援センター いずみの園	認知症の方やその家族等が気軽に参加できる場
こども食堂・やわらぎダイニング	児童家庭支援センター 「和(やわらぎ)」	ひとり親世帯など 毎月第2・4日曜日

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター(高齢者相談支援センター)いずみの園
子育てに関する相談窓口	児童家庭支援センター「和(やわらぎ)」 大幡子育て支援センター「こもん」
民生児童委員による心配ごと相談窓口	毎月第1木曜 13:00 ~ 16:00 大幡コミュニティセンター

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口(P.153参照)にお問い合わせ下さい

如 水

スローガン

**誰もが安心して暮らせる如水
みんなの力でつながる如水**

実践目標①日頃から、隣近所との関係づくりをしよう！

実践目標②地域の情報を共有できる仕組みをつくろう！

実践目標③ゴミ出しマナーの意識・知識を高めよう！



如水地区は保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を有した地域である一方、果樹園等が多くある農村地帯でもあることから、働く元気な高齢者が多い地域です。

つながりづくりを目的に住民主体で実施しているコミュニティーセンターでのサロン活動は長年続いており、新たに空き家を活用した地域サロンも始まりました。また、防犯パトロールや見守り活動も活発に行われているなど地域全体で支え合いの意識が広がっています。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	6,364	6,517	6,599
世帯数	2,642	2,828	3,153
高齢化率	18.5%	22.5%	25.0%
一人暮らし高齢者	297	403	541
高齢者のみの世帯		1,047	1,202
0~18 歳人口	1,328	1,329	1,259

※各年ともに9月30日時点のもの(中津市の統計データより)

実践目標と理由・効果

実践目標①

日頃から、隣近所との関係づくりをしよう！

「地域行事は年々減少していて、近所の人と顔を合わせる機会が少なくなった」「隣に住んでいる人を知らない」などと、近所づきあいが希薄だと感じているという声が多くありました。

隣近所に住む人との関係づくりのきっかけとして顔を合わせる機会をつくることで、日頃からの挨拶や声かけを行うなど、互いに気にかけてくれる関係性を構築できます。また、“地域行事へ参加しづらい”と感じている人も日常の関わりや付き合いがある人からのお誘いがあると、参加しやすく、行事参加者の増加につながります。

実践目標②

地域の情報を共有できる仕組みをつくろう！

「困っていても相談する所が分からない人がいる」「必要な情報が伝わっていない人がいる」などと、周囲の人が心配しているという声が多くありました。

地域の情報を共有する場や発信する機会があれば、困っている人には相談場所や窓口を伝えることができ、情報を求めている人に対しては必要な情報を届けることができます。困った時に手助けしてもらええる環境があることは、いつまでも住み続けられる地域へとつながります。

実践目標③

ゴミ出しマナーの意識・知識を高めよう！

「ゴミ出し日が分からない」「分別ができない」など、ゴミ出し方法が“難しい”と感じているという声が多くありました。

ゴミ出しについての理解が難しい人へは繰り返しお伝えしたり、分かりやすい表示を作成する等で周知していくことが効果的であり、互いに教え合える関係性を築くことで、如水地区全体のゴミ出しマナーに関する意識・知識の向上につながります。

他にも出ましたこんな意見!!

住民同士のサロン
を活性化しよう



新しい団体が活動で
きる場をつくろう



【如水】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
集まって顔を合わせて話す機会をつくる					
住民同士が気軽に意見交換ができる場をつくる					
支え合うために、お互い（近所の人）を知る機会を設ける					
隣近所で気をかけ、声をかけ合う等日頃からの関係づくりをおこなう					
登下校時、近所の人が出た家の前に出る					
新しい人でも参加できることを周知する					
サロンに参加する					
防災訓練に消防署の人に来てもらい、人を集める					
防災士会と協力し、炊き出し訓練をおこなう					
情報共有の場をつくる					
声をあげられない人に対して支援をする					
専門的な方につなげる					
一人暮らしの人や、身内のいない人に制度を知らせる					
自分たちだけでできるような仕組みやシステムをつくる					
ゴミの分別が分からない人にはルールを何度も繰り返して伝える					
クリーンプラザに依頼し、勉強会を開催する					
ゴミの収集場に分かりやすい張り紙をする					
防犯カメラをつける					
自治会と民生委員とで話し合う機会をもつ					

住民同士で助け合
いができる仕組み
をつくろう



空き家についての
情報発信や学ぶ機
会をつくろう

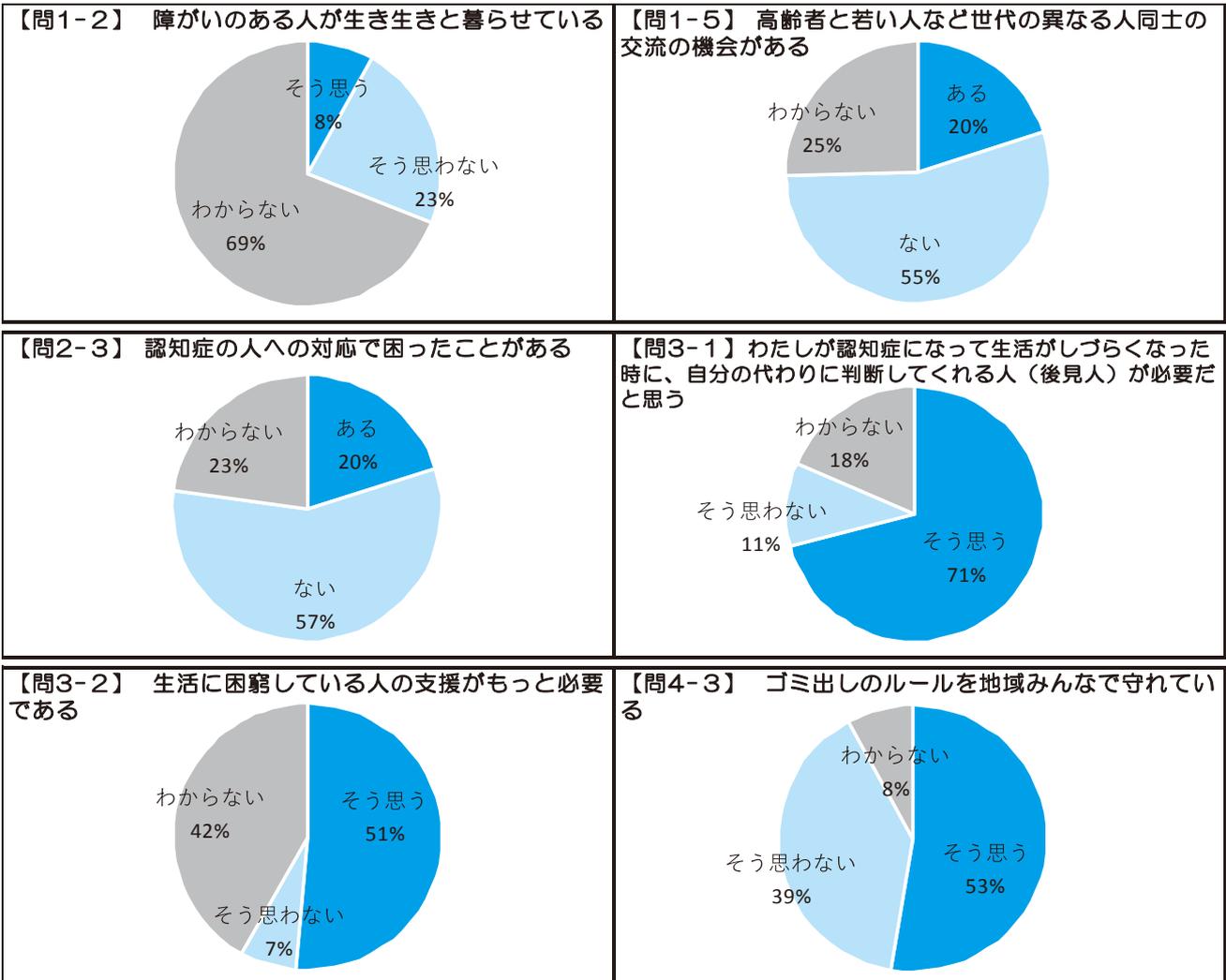


第4次の実践目標はこうして決まりました

如水地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	76人（男性31人/女性44人/無回答1人）
回答者年代	高校生：5人、30代：1人、40代：5人、50代：4人、60～64歳：3人、65～74歳：34人、75歳以上：23人

内容抜粋 無回答分は除いています



アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- ・チラシを配ったり訪問して参加の声かけをする
- ・サロンがどんなことをしているのかなど活動内容の周知をおこなう
- ・仕事がなく困窮している人に対して制度の周知をおこなう必要がある
- ・その人に合った適切な支援ができる仕組みが必要
- ・障がいのある人との関わる機会が必要
- ・近所の人と乗り合わせで買い物や、病院に行ける仕組みがあると良い
- ・どんな人に後見人になってもらえるかなど成年後見制度について知る機会を設ける
- ・ひきこもりに関してのイメージを変えてもらえるような取り組みが必要
- ・防犯の意識を高めるために地域の人が防犯パトロールをしていることを周知する

作業部会で出された、如水地区の良いところ

- 友愛活動や民生委員の活動が活発で安否確認ができています
- 自治会長や民生委員が困りごとに対応してくれた
- 防犯パトロールが活発
- 移動販売車がたくさん来ている
- 困った時に支え合えてくれる人がいるとよく聞く
- コミュニティーセンター活動、サークル、サロン、地域行事等へ元気に参加している人が多い
- コミュニティーセンターや集会所がきれいで使いやすいところが多い
- 日常生活の中で助け合いが行われている（声かけ、草刈り、買い物、ゴミ出しなど）

様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



如水の社会資源

(R3年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝（住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです）

住民同士の 交流・つながりの場	地域サロン	サロンつばめの家（毎週月曜・つばめの家）
	広域型いきいきサロン	如水ふれあいサロン （第3火曜・如水コミュニティーセンター）
	週一体操教室 （2）	上如水団地健康クラブ（毎週水曜・上如水団地健康クラブ） 如水めじろん体操（毎週金曜・如水コミュニティーセンター）
ボランティア活動	給食ボランティア	やまばと会（第3土曜・如水コミュニティーセンター） あけぼの会（第2木曜・如水コミュニティーセンター）
	如水で活動する地域ボランティア	おはなしサークル MOMO 日本語教室きらきら 子ども支援ボランティア中津
防災活動		中津市防災士協議会如水部会 消防団
防犯活動		防犯パトロール隊

関係機関主催の交流の場・社会貢献活動

名称	主催	対象・内容
認知症高齢者搜索模擬訓練	地域包括支援センター（高齢者相談支援センター）いずみの園	如水地区で認知症高齢者の搜索模擬訓練を実施

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター（高齢者相談支援センター）いずみの園
民生児童委員による心配ごと相談窓口	毎月第1木曜 13:00～15:00 如水コミュニティーセンター

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口（P.153参照）にお問い合わせ下さい

三保

スローガン

豊かな自然に、子どもの声が響き合い、
共に支え合う三保の地域づくり

実践目標①食を通して子どもと親と地域のつながりをつくっていこう

実践目標②地域資源を通して障がい者・子ども・高齢者と交流しよう

実践目標③防災を通して地域の備えをすすめよう



三保地区は、昔から続く伝統行事や各種遺跡が数多く残っており、歴史や文化を次世代に継承していこうという活動が活発な地区です。

また、三保交流センターや三保文化センターなどを中心に、地域の交流行事が盛んに行われている地域でもあります。

3世代同居世帯も多く、また、三保小学校と地域にある高齢者施設や障がい者施設との交流行事も盛んなことから、多様な人との交流も積極的に進められています。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	2,814	2,763	2,585
世帯数	1,208	1,251	1,241
高齢化率	26.8%	31.8%	36.0%
一人暮らし高齢者	204	254	291
高齢者のみの世帯		632	666
0~18 歳人口	455	455	398

※各年ともに9月30日時点のもの(中津市の統計データより)

実践目標と設定理由・効果

実践目標①

食を通して子どもと親と地域のつながりをつくっていこう

「地域に知らない人がいる」「子ども会等以前のような交流はないので親同士の交流も少ない」「コロナ禍で世代間交流の機会がなくなっている」など、地域の中での接点が少なくなっている意見が多くありました。

子どもが中心になると親も一緒に参加できる機会となることから、その機会が地域で公認され、さらに子ども目線での取り組みを進めていくことで、新しい人と顔の見える関係づくりにつながります。

実践目標②

地域資源を通して障がい者・子ども・高齢者と交流しよう

障がい・高齢・子どもそれぞれがなかなか接する機会が少ない中、三保地区では、コロナ禍以前に継続して取り組まれていた、三保小学校・三保の杜作業所・小規模多機能水車との交流事業は子どもと障がいのある人と高齢者の人が交流できる機会でした。この交流事業は、楽しく和気あいあいとしており、地域のためにもなることから、今後も続けていくことが大切です。

今ある交流を発展させていくことで、地域全体を巻き込んだ相互理解につながります。

実践目標③

防災を通して地域の備えをすすめよう

地域的に水害の危険性は少ないが、台風時に避難所（交流センター）に避難してくる人は年々増えていることや、自治区によって訓練の実施状況が異なったり、避難場所について知らない人もいるという現状があります。

そのような中、子どもから高齢者まで広く防災意識を広げるためには、楽しく訓練できる学習の機会を作ることで、訓練を通して地域のつながりづくりになり、「みんなで助け合う」意識が広がることにもつながります。

他にも出ましたこんな課題 !!

お困りごと解決隊をつくる

子ども会や老人会などの地域の団体を維持していく

環境美化の意識を広げ、きれいな町づくり

隣近所を知る機会を作る

交流センターだよりを活用し、地域の活動について情報を共有



【三保】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
子どもと親、地域との接点を作る					
子どもが主体となる「子どもと食堂」で交流の場をつくる					
隣近所を知る機会を作る					
各区長、民生委員が集まり地域情報の共有や問題点を話し合う					
三保の杜、水車、学校との交流事業の継続					
障がい者との共同作業を通じて交流し、相互理解を進める					
交流センターを中心に、自治会と協力して地域全体での訓練を行う					
気軽に参加し、交流もでき、学べる「防災フェス」を企画する					
避難生活疑似体験の訓練（例：4～6年生でお泊り訓練）					
三世帯世帯のつながりを活かし、行事に絡めて実施					
交流を兼ねた避難訓練をする					
小地域単位の会議（班長会議）などの実施で情報共有をする					

ひとり暮らしの
人に声かけし、
孤立防止

回覧板を活用した
情報発信

いざという時のために
家族で話し合うことの
大切さを啓発

外国の人とも交流
できる場づくり



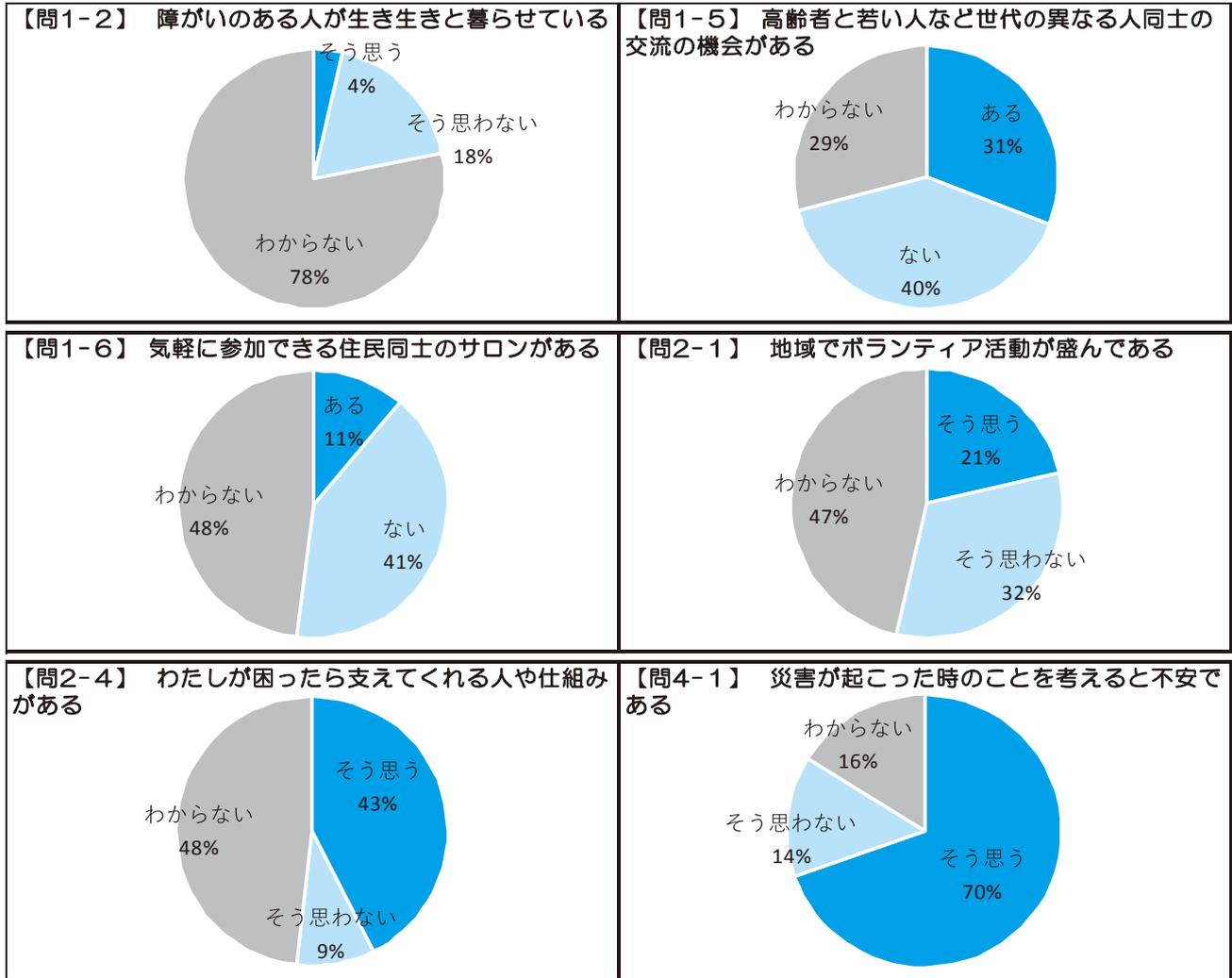
空き家対策として
地域でパトロール

第4次の実践目標はこうして決まりました

三保地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	56人（男性25人/女性31人）
回答者年代	中学生・高校生：1人、30代：4人、40代：22人、50代：3人、60～64歳：3人、65～74歳：16人、75歳以上：7人

内容抜粋 無回答分は除いています



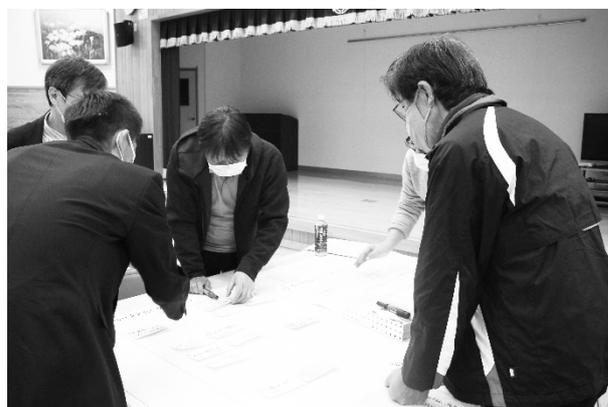
アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- ・見守りのネットワークを作って情報共有すると閉じこもりがちな人等を見守れる
- ・地域で子どもが遊べる場の提供
- ・どんなボランティア活動があり、募集の状況などがわかる、いろんな情報紙があると良い
- ・若い親世代の「おやじの会」があると、情報や支援にもつながる
- ・住民同士のつながりがある所はそれを維持していく
- ・制度を知ってもらう（市民後見人など）
- ・子どもたちへのセーフティネットが必要
- ・中津エリアメールの活用（メールが見れない方への対策が必要）
- ・ゴミ出しの周知方法を検討する

作業部会で出された、三保の地域福祉活動の良いところ

- ・地域活動に参加したり、グラウンドゴルフなど毎日元気に活動している高齢者をよく見かける
- ・地域で子ども同士で遊んでいる様子をよく見かける
- ・同級生の親同士の交流がある
- ・青壮年で集まり交流が盛んな地区がある
- ・地域での活動や行事等で世代間交流している
- ・環境美化などの活動はよく行われている
- ・防犯パトロールなど、防犯の活動が充実している
- ・不審者などは以前に比べると減っている
- ・一時期、見守り活動存続の危機があったが自治会の協力により継続できている
- ・近隣で住民同士のつながりがあり、一人暮らしの人を支えている
- ・困った時に支え合う地域住民同士の仕組み（組）がある
- ・区長がいない地区では、宮総代や班長など協力しながら地域を支えている

様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



三保の社会資源

(R3年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝 (住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです)

住民同士の 交流・つながりの場	いきいきサロン (2)	古森シルバーサロン (第3土曜・古森集会所) 黒川ひばり会 (第3土曜・黒川集会所)
	週一体操教室(4)	黒川健康クラブ (毎週土曜・黒川集会所) 田中にこにこクラブ (毎週月曜・田中集会所) 草場クラブ (毎週火曜・草場公民館) 北原サンサン健康クラブ (毎週水曜・北原地区生活改善センター・北原人形後継者育成センター)
三保で活動する地域ボランティア		北原人形芝居保存会 三保の文化財を守る会
防災活動		消防団 中津市防災士協議会三保部会
防犯活動		防犯パトロール

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター (高齢者相談支援センター) 三光園
生活全般に関する相談窓口	NPO 法人福祉の里なかつ応援隊 毎週水曜 10:00 ~ 11:30 かむろフードセンター内
民生児童委員による心配ごと相談窓口	偶数月第1月曜 10:00 ~ 12:00 三保交流センター

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口 (P.153参照) にお問い合わせ下さい

和田

スローガン

みんなで安全・安心の幸せの輪をつなげよう和田

実践目標①防災訓練を通して防災意識を高めよう

実践目標②誰もが参加しやすい地域のつながいをつくろう

実践目標③安心して暮らせるための情報をPRしよう



和田地区は田畑や果樹園等があり農業に携わる人が多く、元気な高齢者が多いことが特徴であるとともに、自動車製造工場や中津港付近の工業団地などの企業を有した地域でもあります。

いきいきサロンの活動や週一体操、老人会での集まり、子ども食堂等地域の中で交流する機会が増えつつあり、住民の活動が徐々に広がりを見せています。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	2,858	2,772	2,674
世帯数	1,229	1,282	1,307
高齢化率	25.0%	29.5%	32.0%
一人暮らし高齢者	163	214	232
高齢者のみの世帯		570	595
0~18 歳人口	478	425	376

※各年ともに9月30日時点のもの(中津市の統計データより)

実践目標と設定理由・効果

実践目標①

防災訓練を通して防災意識を高めよう

「遠浅の海だから津波の心配がないので防災は意識していない」「災害の被害にあった経験が無いから防災意識が低い」等の問題があり、災害に対する危機意識が低い傾向にあるとの意見が多く出ました。

身を守るために必要な情報を広げ、一人では避難が困難な方でも周囲の協力で安全に避難できるように日頃からの関係づくりを進めることで、安心して暮らせる地域づくりにつながります。

実践目標②

誰もが参加しやすい地域のつながりをつくろう

「交流の場があるのか知らない」「リーダーがいなくて交流の場が増えない」など、地域で交流する場・機会はあるものの、情報不足により活動する方が減っているという問題が出ました。

今ある活動（サロン・週一体操など）を広げるとともに、地域で活動する方同士が集まる機会を設けることで、情報が広がり、地域のつながりが深まり人財の育成にもつながります。

実践目標③

安心して暮らせるための情報をPRしよう

「どこに相談したら良いかわからない」「困った時に頼れる人がいない」「どのような支援・制度があるかわからない」など、困りごとがあっても情報が不足しているため相談できず不安を抱え、必要な支援につながっていない方がいるのではないかという意見が出ました。

様々な形で情報を発信することで早い段階で相談ができるようになり、安心して暮らせる地域づくりにつながります。

他にも出ましたこんな課題!!



相談しやすい
環境を
つくろう

見守りの支援
体制をつくろう

寄り添う環境を
つくろう

【和田】

活動内容		進 捗				
		R4	R5	R6	R7	R8
多世代が参加・体験できる防災訓練を開催する	①小規模単位					
	②校区単位（コミュニティーセンターが会場）					
地域の防災関係者で何から始めたらよいか話し合いをする						
災害時に一人では避難できない人の確認方法を検討する						
地区の防災情報を発信する						
年に複数回避難訓練をし、参加者増加を図る						
地域で活動する関係者が連携し集まる場をもつ						
サロンやネットワークづくり等、他地区の取り組みを知る						
サロンの内容等、情報提供をする						
週一体操への若い世代への参加を促す						
世代交代を意識し、新しい人が入りやすいようにする						
誰でも徒歩で行ける範囲に交流できる場をつくる						
サロンが無い地区にサロンを広げる						
一覧表等をつくり、相談窓口を分かりやすくする						
地域の情報誌をつくる						
若い世代に対して情報発信する						
回覧板や情報掲示などを活用する						
成年後見やひきこもりなどの制度や相談窓口の情報発信をする						

住民同士で支え合える
仕組みをつくらう



住民型有償サービスを
を立ち上げよう



コミュニティーセンターや
集会所を有効活用しよう

第4次の実践目標はこうして決まりました

和田地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	67人（男性26人/女性41人/無回答0人）
回答者年代	中学生・高校生：4名、20代：2名、30代：7人、40代：5人、 50代：6人、60～64歳：4人、65～74歳：21人、75歳以上：18人

内容抜粋 無回答分は除いています

<p>【問 1-5】高齢者と若い人など、世代の異なる人同士の交流の機会がある</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>わからない</td><td>37%</td></tr> <tr><td>ある</td><td>24%</td></tr> <tr><td>ない</td><td>39%</td></tr> </table>	回答	割合	わからない	37%	ある	24%	ない	39%	<p>【問 1-6】気軽に参加できる住民同士のサロンがある</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>わからない</td><td>47%</td></tr> <tr><td>ある</td><td>32%</td></tr> <tr><td>ない</td><td>21%</td></tr> </table>	回答	割合	わからない	47%	ある	32%	ない	21%
回答	割合																
わからない	37%																
ある	24%																
ない	39%																
回答	割合																
わからない	47%																
ある	32%																
ない	21%																
<p>【問 2-1】地域でボランティア活動が盛んである</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>わからない</td><td>42%</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>22%</td></tr> <tr><td>そう思わない</td><td>36%</td></tr> </table>	回答	割合	わからない	42%	そう思う	22%	そう思わない	36%	<p>【問 2-4】わたしが困ったら支えてくれる人や仕組みがある</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>わからない</td><td>38%</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>39%</td></tr> <tr><td>そう思わない</td><td>23%</td></tr> </table>	回答	割合	わからない	38%	そう思う	39%	そう思わない	23%
回答	割合																
わからない	42%																
そう思う	22%																
そう思わない	36%																
回答	割合																
わからない	38%																
そう思う	39%																
そう思わない	23%																
<p>【問 3-5】ひきこもりの人の支援がもっと必要である</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>わからない</td><td>52%</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>43%</td></tr> <tr><td>そう思わない</td><td>5%</td></tr> </table>	回答	割合	わからない	52%	そう思う	43%	そう思わない	5%	<p>【問 4-1】災害が起こった時のことを考えると不安である</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>わからない</td><td>6%</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>88%</td></tr> <tr><td>そう思わない</td><td>6%</td></tr> </table>	回答	割合	わからない	6%	そう思う	88%	そう思わない	6%
回答	割合																
わからない	52%																
そう思う	43%																
そう思わない	5%																
回答	割合																
わからない	6%																
そう思う	88%																
そう思わない	6%																

アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- ・「子ども食堂」で高齢者も受け入れる交流の場にする
- ・PTA・学校と協力して関わりのきっかけづくり
- ・近所づきあいをしっかりしておく
- ・認知症のことを相談できる認知症家族の会とのつながり
- ・ゴミ出しルールのPRや地区説明会の開催
- ・防犯に関する多国語での看板などでのPR
- ・スクールガードや青パト等の更なる充実

作業部会で出された、和田の良いところ

- 仕事や趣味（花作りや畑作業）を充実させている
- 公園などで子どもが遊んでいるのを見かける
- 地区の行事で交流がある（水路清掃、祭り、どんど焼きなど）
- 青壮年会で高齢者・若い人と話す機会がある
- 地域の親和会（老人会）はお宮掃除、壮年会でも活動がある
- みどりこども園と世代間交流の機会がある
- 子ども食堂が交流の場になっている
- 隣近所とのつながりがある
- 住民同士で日頃から気にかけて、声かけ合っている
- お野菜や果物のおすそわけは日常茶飯事です
- ゴミの収集場所がいつもきれいに管理されている
- 防犯パトロールの車や活動している人を多く見かける
- スクールガードが機能していると思う



様々な意見をもとに作業部会で整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



和田の社会資源

(R3年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝 (住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです)

住民同士の 交流・つな がりの場	いきいきサロン (2)	陽だまりサロン (第4水曜・田尻老人憩の家) 諸田竹林元気クラブ (第4木曜・諸田区集会所)
	こども食堂	こども食堂“夢” (不定期の土曜日・田尻)
	週一体操教室(3)	諸田竹林元気クラブ (毎週木曜・諸田区集会所) 小路おげんきクラブ (毎週火曜・小路地区集会所) 陽だまり元気クラブ (毎週金曜・田尻老人憩の家)
ボランティ ア活動	給食ボランティア	なでしこ (第4土曜・田尻老人憩の家) たんぼぼ (第3水曜・小路地区集会所)
防災活動		消防団 防災士協議会和田部会
防犯活動		防犯パトロール、スクールガード 少年警察ボランティア協議会

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談 窓口	地域包括支援センター (高齢者相談支援センター) 三光園
民生児童委員による心配ごと相 談窓口	毎月第3水曜 13:00 ~ 15:00 和田コミュニティセンター

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口 (P.153参照) にお問い合わせ下さい

今 津

スローガン

だれでんかれでん 寄ろうち語ろうえ あい☆いまづ

実践目標① 目指そう！地域みんながつながるまちづくり

実践目標② 地域で見守り助け合う支援体制をつくろう！

実践目標③ 防災意識を高めて訓練につなげよう！



今津地区は周防灘に面しており、海や山など自然が豊かな地域であり、高齢化率が高い地域の一つです。

海岸が近いことや、地区内に犬丸川や五十石川などの大きな河川が通っていることから、災害に対する意識が高い地域でもあります。また、地域活性化の取り組みとして「いきいき今津まちづくり協議会」による住民参加のまちづくりの取り組みが進められています。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	4,270	4,187	3,878
世帯数	1,927	1,993	1,967
高齢化率	29.5%	32.9%	36.0%
一人暮らし高齢者	356	415	454
高齢者のみの世帯		980	1,014
0~18 歳人口	651	647	542

※各年ともに9月30日時点のもの(中津市の統計データより)

実践目標と理由・効果

実践目標①

目指そう！地域みんながつながるまちづくり

「地域の中で孤立している高齢者がいる」「世代間交流の場や機会が少なくなっている」「ボランティア活動をしている人が限定的で、若い人が少ない」など、住民同士のつながりに関する意見が多く出ました。住民の方が参加するきっかけづくり、また活動の担い手を増やしていく取り組みを進めていくことで、既存の交流の機会を活性化させながら地域のつながりが広がっていきます。

実践目標②

地域で見守り助け合う支援体制をつくろう！

アンケートや作業部会を通じて「一人暮らしだと不安」「声を上げることができない人がいて、支援につながっていない」「困った時に、どこに・誰に相談したらいいのか分からない」など、生活に不安を抱える方への支援に関する意見が出ていました。地域の相談役を中心に、不安や困りごとを抱える人を気にかけて支える仕組みをつくっていくことでつながりが生まれ、住民同士が課題解決に向けて協力できる地域となっていきます。

実践目標③

防災意識を高めて訓練につなげよう！

防災の取り組みについて、「今津の中でも地域によって状況が異なり、それぞれに合った取り組みを考える必要がある」「災害時の避難について、誰が誰を見守り声かけしていくのか決まっておらず心配」といった意見が出されました。今津全体として災害に対する意識を高める取り組みを行いながら、それぞれの地域の状況に合わせた防災の取り組みを実施していくことで、実情に沿った災害に強い地域づくりが進められます。

地域みんなが支える人（サポーター）になろう

地域活動の後継者をつくろう

認知症にやさしいまちづくりを進めよう

見守り体制をつくろう

人と人がつながるまちづくりを進めよう

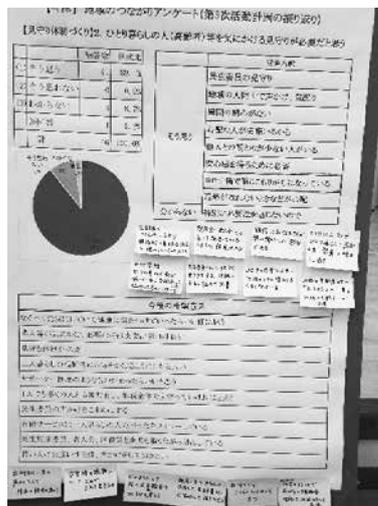


【今津】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
自然と人が集まる場やきっかけをつくる					
今実施している様々な活動を活性化させて、交流を深める機会にする					
週一体操の場を活用した支え合いの仕組みづくり					
ボランティア活性に向けた後継者（若い層）の育成					
若い世代や男性の参画を目的とした企画を考える					
活動の担い手となるような地域の人材を育てる					
困りごとがあれば地域で手助けできる関係づくり					
見守り活動について民生委員と連携・相談しながら進める					
一人暮らしの方を気にかける「見守りサポーター」をつくる					
自治委員、民生委員に加え、地域の協力による見守り体制を整備する					
地域内の連絡体制等の仕組みづくり					
訓練など実施することを前提に考える（意識を高める）					
地区に合わせた災害対策を検討する（各地区の防災マップ作成など）					
避難時などの具体的な対応方法を検討する					
避難場所について、関係者が協議し共通認識が持てる機会をつくる					
今津全体で話す機会を設け、地域ごとで話す機会をつくる					
消防団などとの連携を図る					

地域の相談先の
周知をしよう

地域の色々な人と
の交流を図ろう



空き家対策を
考えよう

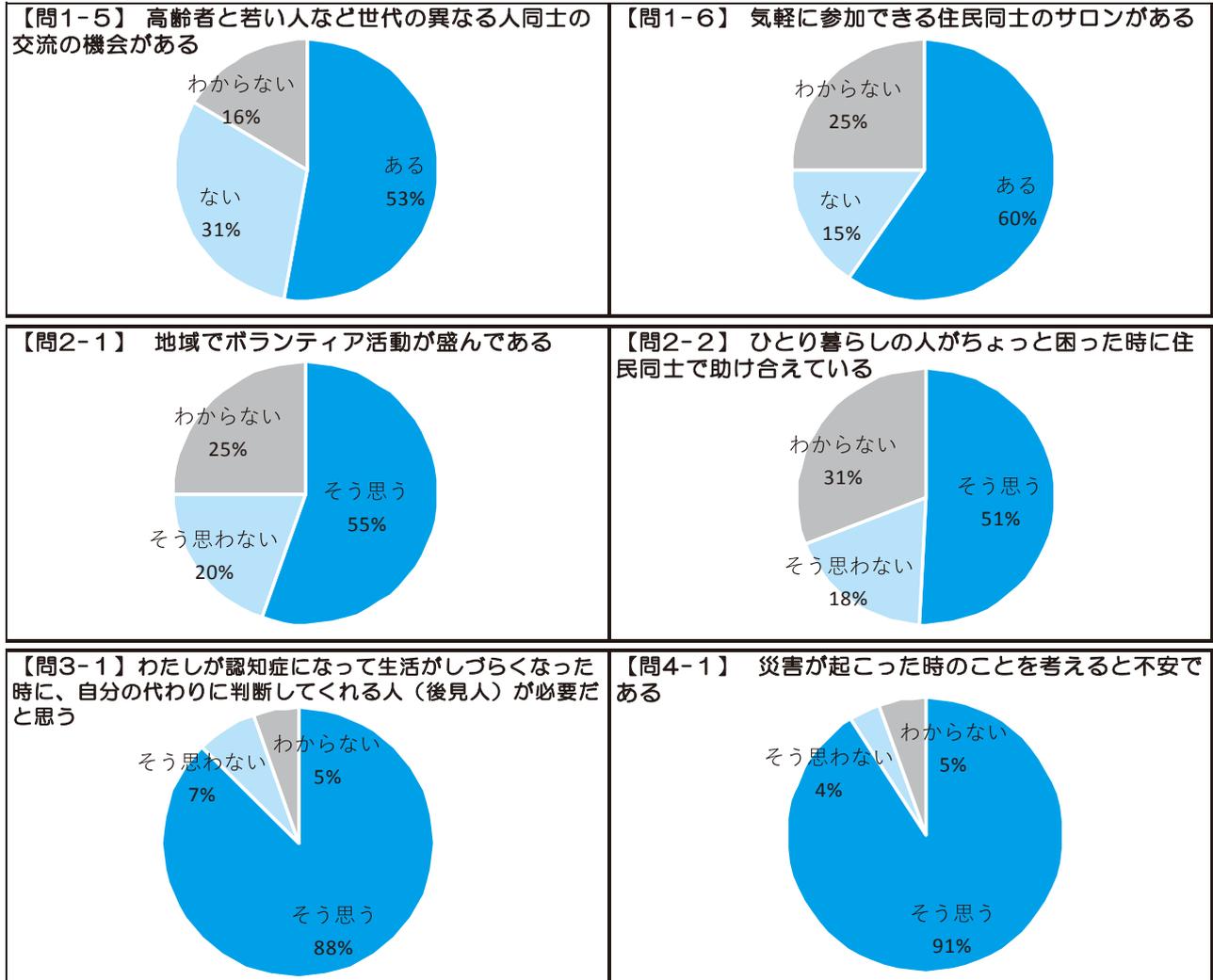
防犯対策の取り組
みを実施しよう

第4次の実践目標はこうして決まりました

今津地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	56人（男性21人/女性35人/無回答0人）
回答者年代	中学生・高校生：10人、50代：3人、60～64歳：4人、 65～74歳：27人、75歳以上：12人

内容抜粋 無回答分は除いています



アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- ・高齢者との関わりでは特に民生委員さんの負担が大きく、何らかの形で軽減できるといい
- ・地域内の連携（コミュニケーション）をうまくとる必要がある
- ・認知症についての理解を深める機会が必要
- ・週一体操の場を活用した支えあいの仕組みづくり
- ・自然と手を差し伸べられる人間力を身につけられるような教育（福祉教育など）が大切
- ・障がいのある方たちとの交流の場があるといい
- ・日ごろからのご近所づきあい、コミュニケーションが大切
- ・災害の内容などで避難場所を検討する必要がある
- ・防犯や交通安全などの啓発看板を効果的なポイントに絞って設置できるといい

今津の社会資源

(R3年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝 (住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです)

住民同士の交流・つながりの場	いきいきサロン	うへのサロン (月2回木曜・植野公民館)
	広域型いきいきサロン	福祉ボランティア キューピット (第1月曜・今津コミュニティーセンター)
	週一体操教室(6)	植野健康クラブ (木曜・植野公民館) 野依健康体操 (木曜・野依集会所) 犬丸いきいきクラブ (水曜・犬丸集会所) えびす元気いきいき週一体操今津教室 (木曜・今津区集会所) いきいき停車場週一体操 (水曜・今津コミュニティーセンター) いきいき赤迫健康クラブ (木曜・赤迫地区集会所)
ボランティア活動	給食ボランティア (2)	いちごの会 (第3金曜・今津コミュニティーセンター) ちぐさの会 (第3土曜・今津コミュニティーセンター)
	今津で活動する地域ボランティア	ほーかご今津子ども教室 エンゼルスクール・書き方教室 鍋島高齢者の会ボランティア「友愛」 停車場ボランティアの会
住民型有償サービス		今津支え合いサービスすみれ
防災活動		消防団、中津市防災士協議会今津部会
防犯活動		今津地区自主防犯パトロール会

関係機関主催の交流の場

名称	主催	対象・内容
オレンジカフェさわらび	特別養護老人ホームさわらび	認知症の方やその家族等が気軽に参加できる場
よりみちCafe	一般社団法人こころのおと	オレンジカフェ、こども食堂、カレーランチ、夜カフェ などを開催
よりあ	今津地区生活支援コーディネーター	大勢が集まる場に行きづらいと感じている人の居場所づくり (月1回)

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター (高齢者相談支援センター) いずみの園
民生児童委員による心配ごと相談窓口	毎月第1月曜 10:00 ~ 12:00 今津コミュニティーセンター
生活支援コーディネーターによる相談窓口	毎月第3火曜 13:30 ~ 16:00 たけちゃん家

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口 (P.153参照) にお問い合わせ下さい

三光

スローガン

八面に広がる三光
～住みたくなるふるさとをつくろう～

実践目標①地域の交流を深めよう

実践目標②お互いに支え合う地域づくりをしよう

実践目標③向こう三軒両隣の防災のしくみをつくろう



三光地区には中津市のシンボルともいえる八面山があり、平野に田園が広がる地域です。また地区によってはベッドタウンとして少しずつ世帯数が増えています。

全自治区でいきいきサロンが活発に行われており、ここ数年は、地域福祉ネットワーク協議会「ふくしの里“ややま”」や住民型有償サービス「三光こすもすサービス」が立ち上がるなど、小地域での取り組みが活発に進められています。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	5,492	5,250	5,037
世帯数	2,125	2,182	2,221
高齢化率	28.3%	32.8%	36.0%
一人暮らし高齢者	336	437	489
高齢者のみの世帯		1,213	1,251
0～18歳人口	919	893	854

※各年ともに9月30日時点のもの(中津市の統計データより)

実践目標と設定理由・効果

実践目標①

地域の交流を深めよう

「サロンの参加者がいつも同じ」「サロンへの男性の参加が少ない」「交流の場の情報が無く、参加する機会がない」など、祭りをはじめ地域全体で取り組む行事がある一方で、交流の機会が不足しており、日頃の関係が希薄になるのではないかという意見が多くありました。

サロンや行事を続けることで交流の機会となり、地域の中で顔の見える関係ができます。普段の生活の中で挨拶を交わす機会がうまれることで、自然と多世代の交流ができ、後継者の育成にもつながります。

実践目標②

お互いに支え合う地域づくりをしよう

「一人暮らしの人へどう声かけしたら良いかわからない」「ひきこもりについて困っている家族がいると思う」「将来買い物など生活に必要なことに困りそう」などの意見から、困った時の相談先や今後の日常生活を心配する声がありました。

認知症やひきこもり等について知る機会を持つことにより、生活の中での困りごとが他人事ではなく“自分ごと”として捉えられるようになります。お互いが気に掛け合うことで、ちょっとしたことも気軽に相談できる安心して暮らせる地域づくりへとつながります。

実践目標③

向こう三軒両隣の防災のしくみをつくろう

「災害の経験が無く、想像できない」という意見が多くあり、近年自然災害に見舞われる機会が無かったため防災に対する意識が低いという問題が出ました。そのため、実際の災害時にどのように動けるのか不安を感じています。

避難訓練をはじめとした防災を意識できる取り組みを重ねることにより、1人ひとりが『防災』について自主的に関わる意識を高めていくことで、実際の災害時にも近隣同士で助け合える地域づくりへとつながります。



地域で子どもたちを見守りながら育てよう

班単位での助け合いをしよう



【三光】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
世代間交流を継続する					
昔からの祭りや運動会などの行事を継続する					
小さな単位で人と交流する機会をもつ					
地区内の世話役同士が話し合える機会をもつ					
サロン等行事の際、参加している人が周りの人に声かけて誘う					
子どもの登校及び下校を見守る					
地域活動の後継者を育てる					
交流のやり方など情報収集する					
早めに行事日程を決めることで参加しやすくする					
家族など介護している方への支援について考える					
コミュニティセンター を活用して学習会を開催 する	①認知症について				
	②成年後見制度について				
	③障がいについて				
制度や支援内容などの情 報のPR をする	①生活困窮者の支援について				
	②ひきこもりについて				
	③三光こすもすサービスについて				
個人の困りごとを気兼ねなく頼れる仕組みをつくる					
宅配を活用できる仕組みをつくる					
小地域単位での避難訓練を行う					
避難困難者の支援について確認する					
火災警報器や消火器の確認をする					
一人ひとりの避難時の行動計画を作成する					
日頃から防災に対する意識啓発を行う					
今まで以上に地区防災会が活性化する					



地域の福祉活動の
情報を発信しよう



第4次の実践目標はこうして決まりました

三光地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	45人（男性18人/女性26人/無回答1人）
回答者年代	20代：1人、30代：4人、40代：5人、50代：1人、60～64歳：4人、65～74歳：24人、75歳以上：5人、無回答：1人

内容抜粋 無回答分は除いています

<p>【問1-5】高齢者と若い人など、世代の異なる人同士の交流の機会がある</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>ある</td><td>46%</td></tr> <tr><td>ない</td><td>33%</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>21%</td></tr> </table>	回答	割合	ある	46%	ない	33%	わからない	21%	<p>【問1-6】気軽に参加できる住民同士のサロンがある</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>ある</td><td>81%</td></tr> <tr><td>ない</td><td>2%</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>17%</td></tr> </table>	回答	割合	ある	81%	ない	2%	わからない	17%
回答	割合																
ある	46%																
ない	33%																
わからない	21%																
回答	割合																
ある	81%																
ない	2%																
わからない	17%																
<p>【問2-2】ひとり暮らしの人がちょっと困った時に住民同士で助け合っている</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>そう思う</td><td>59%</td></tr> <tr><td>そう思わない</td><td>14%</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>27%</td></tr> </table>	回答	割合	そう思う	59%	そう思わない	14%	わからない	27%	<p>【問2-4】わたしが困ったら支えてくれる人や仕組みがある</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>そう思う</td><td>46%</td></tr> <tr><td>そう思わない</td><td>12%</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>42%</td></tr> </table>	回答	割合	そう思う	46%	そう思わない	12%	わからない	42%
回答	割合																
そう思う	59%																
そう思わない	14%																
わからない	27%																
回答	割合																
そう思う	46%																
そう思わない	12%																
わからない	42%																
<p>【問3-2】生活に困窮している人の支援がもっと必要である</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>そう思う</td><td>44%</td></tr> <tr><td>そう思わない</td><td>14%</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>42%</td></tr> </table>	回答	割合	そう思う	44%	そう思わない	14%	わからない	42%	<p>【問4-1】災害が起こった時のことを考えると不安である</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>そう思う</td><td>77%</td></tr> <tr><td>そう思わない</td><td>7%</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>16%</td></tr> </table>	回答	割合	そう思う	77%	そう思わない	7%	わからない	16%
回答	割合																
そう思う	44%																
そう思わない	14%																
わからない	42%																
回答	割合																
そう思う	77%																
そう思わない	7%																
わからない	16%																

アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- 交流の場や機会の情報発信の方法や手段を考える必要がある
- 退職後の男性の力が発揮できる場を作る
- 男性が地域行事等へ参加しやすくなるしくみを考えボランティア活性につなげる
- コロナでもできることをするため、交流のやり方など情報収集をする
- ケーブルテレビを活用して「伝え方」の工夫が出来る高齢者にも情報が伝わるのではないか
- 家庭で「防災の日」を作って非常食の無駄をなくす

作業部会で出された、三光の良いところ

- ・学校と地域の交流がある
- ・深水小学校の行事には地域住民も積極的に協力する（プール掃除も一緒にする）
- ・サロンが 15 地区にある
- ・「あいさつプラスワン運動」等、近隣同士での声のかけあい・見守りができている
- ・世代間交流の機会が比較的多い
- ・地域によっては住民が少なく、みんなで地域行事も参加している
- ・認知症になっても助けてくれる家族・親族が多く住んでいる
- ・公共施設、商業施設でバリアフリーが進んでいる
- ・小学校の登校（下校）はボランティアが見守りをやっている
- ・住民型有償サービス「三光こすもすサービス」で、一人暮らしの人などの色々な困りごとに対応している

様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第 4 次地域福祉活動計画を作っていました



三光の社会資源

(R3 年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝 (住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです)

住民同士の交流・つながりの場	いきいきサロン (15)	佐知、土田、臼木、小袋、諫山、原口、成恒、森山、下田口、上田口、西秣、下秣、上秣、下深水、上深水
	週一体操教室(5)	森山健康クラブ (毎週火曜・森山地区多目的集会所) 成恒健康クラブ (毎週火曜・成恒集会所) 上秣健康クラブ (毎週木曜・上秣営農集団センター) うすぎ健康でいようクラブ (毎週木曜・臼木多目的集会所) 下秣いきいき健康クラブ (毎週月曜・下秣公民館) 土田長寿クラブ (毎週木曜・土田公民館)
ボランティア活動	給食ボランティア	たけのこの会 (月1回・第1月曜日)
	三光で活動する地域ボランティア	三光観光ボランティアガイドの会、佐知おどり愛好会、むつみ会、臼木ボランティアグループ、うぐいすの会、下秣ボランティアグループ、虹の会
住民型有償サービス		三光こすもすサービス
防災活動		消防団、防災士協議会三光支部
防犯活動		スクールガード

関係機関が主催する交流の場・社会貢献活動

名称	主催	対象・内容
オレンジカフェ三光	地域包括支援センター社協	認知症の方やその家族等が気軽に参加できる場

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター (高齢者相談支援センター) 社協
民生児童委員による心配ごと相談窓口	毎月第1金曜 10:00 ~ 12:00 三光コミュニティセンター
生活支援コーディネーターによる相談窓口	毎月第2金曜 13:30 ~ 16:00 佐々木さんち

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口 (P.153 参照) にお問い合わせ下さい

本耶馬溪

スローガン

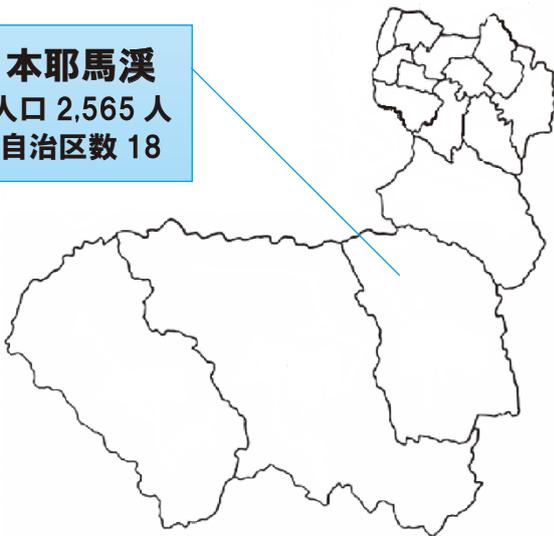
来^きちよくれ、帰^きちよくれ、
おおらかな ふるさと 本耶馬溪

実践目標①誰もが参加しやすい、魅力ある地域行事をつくろう！

実践目標②ふれ愛ネットワーク等による、見守り体制強化しよう！

実践目標③気軽に声をかけ合える関係づくりをしよう！

本耶馬溪
人口 2,565 人
自治区数 18



本耶馬溪地区では、一年を通じて観光客が訪れる青の洞門や羅漢寺などがある自然豊かな観光地です。

平成6年に始まった「ふれ愛ネットワーク」の活動は、隣近所での見守り、交流会等の開催などを行っており、住民同士のつながりづくりの基本となっています。

また新たに、いきいきサロンや週一体操、住民型有償サービス「本耶馬溪ひまわりサービス」の発足など、高齢者やボランティアの交流や、地域の支え合い活動が広がっています。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	3,329	2,941	2,565
世帯数	1,380	1,358	1,287
高齢化率	37.0%	42.9%	49.0%
一人暮らし高齢者	297	366	392
高齢者のみの世帯		899	892
0~18歳人口	433	326	265

※各年ともに9月30日時点のもの(中津市の統計データより)

実践目標と理由・効果

実践目標①

誰もが参加しやすい、魅力ある地域行事をつくろう！

高齢化や人口の減少などにより「地域行事が減った」「子供との関りが少なくなった」「後継者がいない」などの問題があり、地域行事の在り方を見直そうという意見が多く出ました。地域行事や交流の場などへの参加の機会が少なくなったことで、閉じこもりがちになり心と身体の活力の低下が心配されます。行事の規模の見直しや、内容の工夫を行い、子ども達や子育て世代の参加が増えることで、地域行事の継続につながります。また日頃からのあいさつや声かけによるコミュニケーションを図ることで、地域行事への参加にもつながります。

実践目標②

ふれ愛ネットワーク等による、見守り体制強化しよう！

「地域のつながりづくりが必要」「困りごとを言える関係づくりが必要」「孤独死をなくす」などの意見が多く出ました。

ふれ愛ネットワークやスクールガード等の見守り活動は行われていますが、見守り体制強化をしていくためには、活動をより多くの人に知ってもらい関心を持ってもらうことが大切です。また、顔を合わせる機会を増やし、地域行事等の工夫を行いながら、地域のつながりをつないでいくことで、地域の情報共有にもつながります。日頃から気にかけて、気かけられる輪を広げていくことにより、見守りがつなく地域のきずなを育てていきたいです。

実践目標③

気軽に声をかけ合える関係づくりをしよう！

「なんでも言える関係づくりが大切」「変化に気づくことが大切」など、お互いが気兼ねなく困ったが言える関係づくりには、日頃からのあいさつと声かけが大切との意見が多く出ました。

本耶馬溪地区では核家族化や少子高齢化が進み、地域でのふれあいの機会が失われつつあります。交流の機会が減りつつある中でも、日頃から声をかけあうことで地域の住民同士のつながりができ、お互いの信頼関係につながります。声かけによりいざという時に支え合える関係づくりをしていきたいです。

他にも出ましたこんな課題！！

世代間交流の機会をつくる

認知症にやさしい地域づくり

寄り合いの場づくり (場所づくり)

若い世代のつながりの場づくり

有償サービスの情報発信

サロンの送迎

【本耶馬溪】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
誰でも参加しやすい楽しめる内容を盛り込む					
集いの場に興味を持ってもらい、出てきやすい環境を整える					
地域行事への参加の声かけをする					
家に籠っている人に出てきてもらうよう声かけをする					
若い世代も参加しやすい地域行事等の工夫を行う					
指導者（後継者）の育成					
行きたいところに行ける取り組みを行う（送迎をする）					
回覧板等の手渡しを行い、訪問時にお互いに気かけ合う					
ふれ愛ネットワークや地域の様々な見守り活動等の情報を発信する					
地域行事等を活用し、互いの様子を確認し、地域の情報共有をする					
ふれ愛ネットワークの見守り活動をさらに充実させる					
地区の寄り合い「たのもし」のような事をする（月1回集まる）					
声をかけやすい関係づくり（あいさつ・声かけをする）					
日頃からの近所付き合いを大切にする					
遠方の家族とも相談できる付き合いをしていく					
あいさつ運動の普及啓発（地域であいさつ運動などの取り組みを行う）					
草の根活動、一人ひとり訪ねて関係づくりをする					

有償サービスの活用

気軽な声かけ

地区内での広報活動

地区の危険場所の確認

いろいろな世代の
人がつながれる地
域づくりが必要



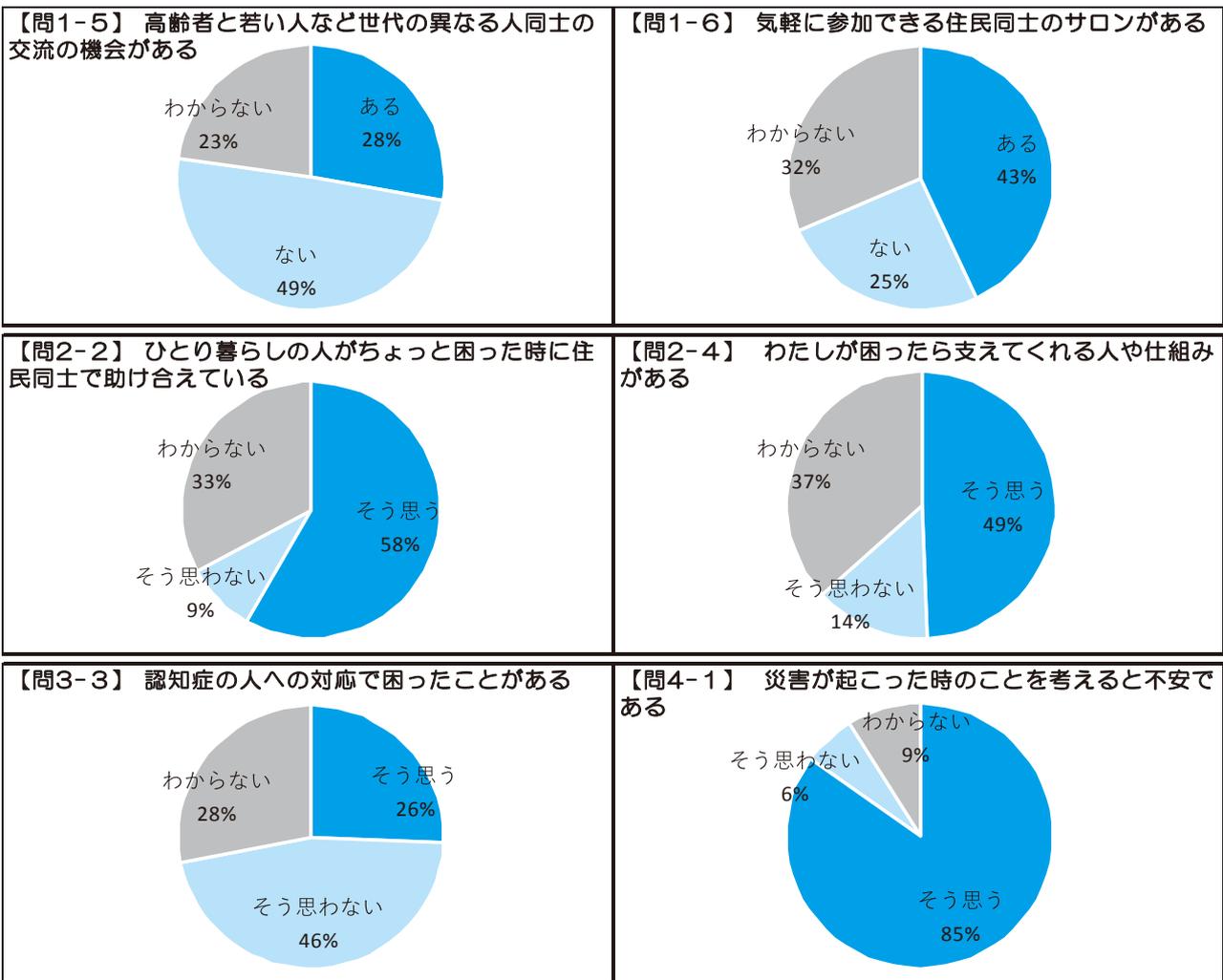
移住者へ地域活動の
情報発信をしよう

第4次の実践目標はこうして決まりました

本耶馬溪地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	79人（男性26人/女性52人/無回答1人）
回答者年代	中学生・高校生：8人、20代：1人、30代：4人、40代：9人、50代：14人、60～64歳：12人、65～74歳：24人、75歳以上：6人

内容抜粋 無回答分は除いています



アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- ・子育て世代の移住促進
- ・一人暮らしの人もお互いに気を遣わない地域づくり
- ・家に籠っている人に出てきてもらうよう声かけをする
- ・若い人や移住者に地域活動への声かけをし、新たな人財を増やす
- ・ボランティア活動の内容周知、相談窓口の広報をする
- ・認知症を受け入れる、お互い意識しない・させない地域づくり
- ・今後、できなくなったことを気軽にお問い合わせできるサービスをつくる
- ・ひきこもりをはじめ、誰もが気軽に相談できる体制づくり
- ・サロン活動や地域活動の後継者の育成

作業部会で出された、本耶馬溪の良いところ

- ・サロンや週一体操、地区行事や公民館活動等、地域の交流の場に参加する高齢者が多い
- ・スクールガードの活動をしている
- ・独自にお互いちょっとしたことで助け合っている
- ・地域でサロンや各団体の活動がある
- ・気になる家庭にはご近所で気にかけているところが多い
- ・水害の経験があるので、避難指示ができれば近所の方と避難をする体制ができている（一緒に避難するので安心）
- ・コロナで祭り等はできないが、お宮の掃除などは続けており、住民同士が集まるようにしている
- ・ふれ愛ネットワーク活動のおかげで、地域の情報等を知ることができる



様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



本耶馬溪の社会資源

(R3 年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝 (住民による住民のための支え合いや参加を進め活動のことです)

住民同士の交流・つながりの場	地域サロン	はちどり庵 (毎週木曜日・はちどり庵)
	広域型いきいきサロン	サロンなでしこ (毎月 15 日・東谷地区公民館)
	いきいきサロン (4)	折元おたのしみ会 (月 1 回・折元集会所) たのしみ会 (第 3 金曜・多志田冠石野集会所) にこにこサロン下曾木 (第 2 日曜・下曾木地区集会所) ひだ悠遊サロン (第 3 金曜・樋田地区公民館)
	週一体操教室 (3)	はちどり庵健康クラブ (毎週木曜・はちどり庵) 東谷健康クラブ (毎週水曜・東谷地区公民館) 六所健康クラブ (毎週水曜・今行・下屋形地区集会所)
	その他	下曾木いこいの家、移動販売の日 (みんなが集まる)
本耶馬溪で活動する地域ボランティア	絵本大好きサークル「どんぐり」、本耶馬溪観光ボランティアガイドの会、羅漢寺フィールド文化倶楽部	
住民型有償サービス	本耶馬溪ひまわりサービス	
見守り活動	ふれ愛ネットワーク	
防災活動	自主防災組織、消防団、中津市防災士協議会本耶馬溪部会	
防犯活動	スクールガード、防犯パトロール隊 (落合)	
その他	かならせ会 (鹿嵐山登山道の草刈など) 民生・児童委員見守り赤飯配布 (独居、高齢者世帯対象)	

関係機関が主催する交流の場・社会貢献活動

名称	主催	対象・内容
オレンジカフェ本耶馬溪	地域包括支援センター社協	認知症の方やその家族等が気軽に参加でき場
オレンジカフェかえで	特別養護老人ホームかえで	入所者との交流、おやつ作りや頭と体の運動ゲームなど

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター (高齢者相談支援センター) 社協
民生児童委員による心配ごと相談窓口	毎月第 3 水曜 9:00 ~ 12:00 本耶馬溪支所/社協本耶馬溪

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口 (P.153 参照) にお問い合わせ下さい

耶馬溪

スローガン

小さな気配り大きな安心
～未来に向かってはばたく福祉の輪～

実践目標① 共生できる集いの場を作ろう

実践目標② 日頃から近所づきあいを大切にしよう

実践目標③ 地域活性化！みんな参加の環境づくりに活動していこう！



耶馬溪地区は中津市内で最も面積が広く、そのほぼ全域が山間部で、少子高齢化の影響から市内でも高齢化率が 2 番目に高い地域です。

地縁の深い地域の特性から、隣近所の助け合い活動が推進され、小地域ごとの行事や活動が行われています。全地域に「見守りネットワーク」があり、声かけや関わることによって孤立しない取り組みに努めています。また、住民型有償サービス「たんぽぽサービス」の活動や、いきいきサロンの実施などの意欲的な取り組みがすすめられています。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	4,596	4,022	3,370
世帯数	1,852	1,789	1,652
高齢化率	39.6%	45.1%	51.0%
一人暮らし高齢者	447	482	487
高齢者のみの世帯		1,283	1,186
0～18 歳人口	524	386	257

※各年ともに9月30日時点のもの(中津市の統計データより)

実践目標と設定理由・効果

実践目標①

共生できる集いの場を作ろう

サロンが地域の人々の「生きがいの場」「情報共有の場」になっていて、とても大切な集いの場であるという意見がでました。この流れで、高齢者にはサロンがありますが、一方で「幅広い世代で集まれる場が少ない」との問題点が出ました。様々な人が集える場を作っていくことによって、いろいろな世代の生きがいの場、情報交換、情報共有の場になり、そこが人と人とのつながりの場になります。

実践目標②

日頃から近所づきあいを大切にしよう

「世代が交代し、地域での助け合いの意識も希薄になっている」「地域の行事が少なくなってきた」「なかなか家に入っていけない」などの問題点が意見として出ました。

地域住民による見守りネットワークや行政による困りごとサポートなど取り組んでいますが、この活動だけでなく、住民同士で日頃から挨拶や声掛けなどを大切にすることで、住み慣れた地域で互いに助け合っていくことができます。

実践目標③

**地域活性化！
みんな参加の環境づくりに！活動していこう！**

「地域の美化デーや、集落行事に参加するのは高齢者がほとんど」「若年層が地域行事にもっと参加してほしい」などの問題点が出ました。こういった地域の行事や、集落行事は、住民同士の交流の場となり、顔の見える関係性もできるため、とても大切です。若い世代や、移住してきた方などの参加が増えることで、地域の良い関係性もでき、地域の活性化につながります。

他にも出ましたこんな課題！！

防災の学習
と防災訓練
の実行！！

ひとり暮らし
の方への支援
が必要

ボランティア
活動の活性化

お隣同士の
見守り・声
かけが大切

買い物支援！



地域のリー
ダー育成を
しよう！！

【耶馬溪】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
野菜作りなどが収入につながるような団体を作り、生きがいにする					
移動販売車の停まる場所を利用して、人の集まる場にする					
馬溪橋などの屋外を活用して、人の集まる場にする					
サロンの情報発信をする					
サロンの内容を興味と魅力のあるものにして、誰でも参加しやすいようにする					
公民館を集まりやすい雰囲気にする					
お互いに助け合えるような近所付き合いができるようにしていく					
一人暮らしの人には市報を配るときなど、手渡しするようにする					
地域の行事にたくさんの人が参加するように発信する					
見守りネットワークの活動をもっと充実する					
移住してきた方が地域住民に溶け込めるようにする					
若年層にボランティア等に参加してもらえるような声かけが大切					
移住してきた人に地域で行っている活動を知らせて誘う					
市の防災ラジオ、メールの活用など、情報発信の方法を工夫する					
ゴミ出しについて市からの出前講座を活用し、勉強会を実施する					

サロンや自治会で勉強する機会が必要！（後見人・終活ノート）

認知症の理解を深める学習会の実施をする

声かけと助け合いが大切！

農林業の復活を！

行事の際などの移動支援を考えよう！

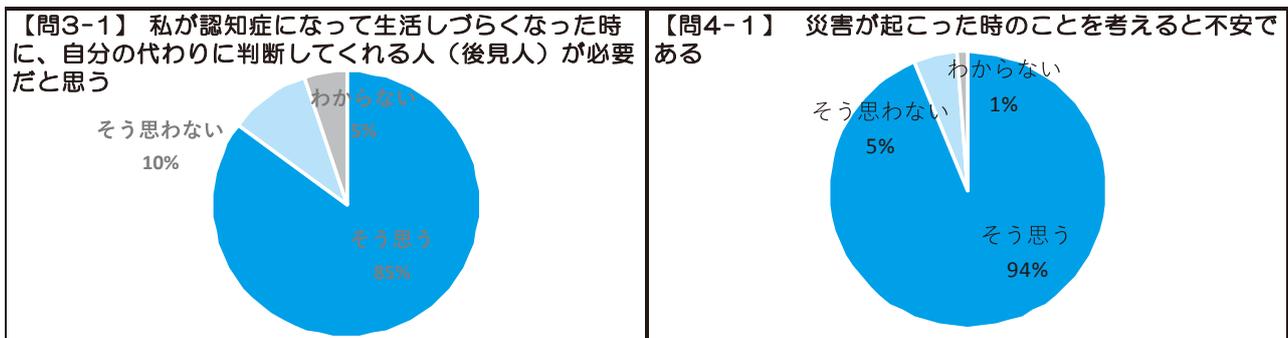
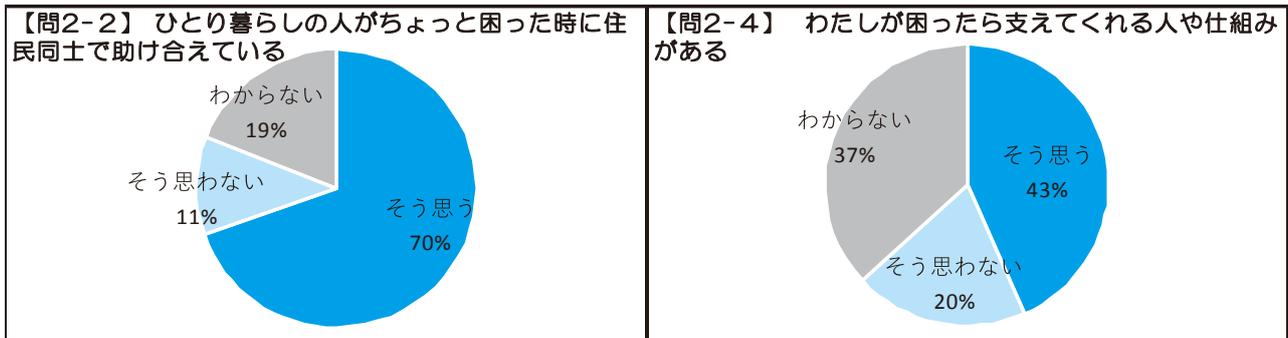


第4次の実践目標はこうして決まりました

耶馬溪地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	81人（男性39人/女性42人/無回答0人）
回答者年代	30代：1人、40代：10人、50代：11人、60～64歳：12人、65～74歳：37人、75歳以上：9人、無回答：1人

内容抜粋 無回答分は除いています



アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- ・おせっかいにならない程度に見守り・声かけを続ける
- ・若い人が定着するような施策が必要（移住支援等）
- ・地域の活動の見直しが必要かもしれない
- ・地域の行事を今後につなげていく
- ・認知症の学習会や研修会を増やす
- ・認知症になっても地域で見守りながら支え合っていく
- ・地域同士で声を掛け合い、送迎を行える関係を作る
- ・シルバー人材や有償サービスを気軽に利用する
- ・子ども達に地元の良さを伝えながら育てる

作業部会で出された、耶馬溪の地域福祉活動の良いところ

- ・見守りネットワークがある
- ・有償サービスたんぽぽが活動的である
- ・サロン活動が小地域にあり、活発である
- ・移住してきた方々が積極的に活動している
- ・スクールガード活動があり、地域で子どもたちを見守っている
- ・美化デー、道路愛護デーに積極的に参加している人が多い
- ・運動会に地域の人に参加するなど、子どもたちと地域の人との交流が盛んである
- ・地域の祭りや、公民館祭りに参加し、交流の場を大切にしている



様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



耶馬溪の社会資源

(R3 年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝 (住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです)

住民同士の交流・つながりの場	いきいきサロン (25)	伊福いきいきサロン、楽しもう会、鎌城老人会「ほほえみクラブ」、ノーソンサロン、サクラ加工グループ、島お楽しみ会、どんぐりの会、原井いきいきサロンあじさい会、榎木よろうちたのしむ会、長岩サロン、天満いきいきサロン、不動岩いきいきサロン、金吉・大久保OKサロン、サロン若宮、ふれあいサロン「かみとぼる」、ロノ林サロン「さかしい会」、サロン橋本、おしゃべりBAR、ふれあいサロン「たっとまり」、ふれあいサロン・一ツ戸、柿坂なごみサロン、家籠ふれあい会、サロン中村、サロン隋雲寺、だいだいクラブ
	週一体操教室(2)	下郷楽しもう会 (毎週水曜・宮園公民館) 若宮元気になろう会 (毎週火曜・上宮の馬場公民館)
	その他	おゆずりサロン、つうだらだった
耶馬溪で活動する地域ボランティア	檜原山の歴史と自然を守る会、耶馬溪歴史観光案内人の会、中津耶馬溪アカデミアの会、中村集落ゴミ追放の会、アグリキャッツ、耶馬溪ジュニア・ボランティアリーダー、耶馬溪町更生保護女性会、NPO 法人 耶馬溪ほたるの会、まーちゃん家運営協議会	
住民型有償サービス	耶馬溪たんぽぽサービス	
防災活動	消防団、中津市防災士協議会耶馬溪部会	
防犯活動	小学校児童スクールガード	
見守り活動	耶馬溪見守りネットワーク	

関係機関が主催する交流の場・社会貢献活動

名称	主催	対象・内容
オレンジカフェやばけい	地域包括支援センター社協	認知症の方やその家族等が気軽に参加できる場
よりあ	耶馬溪地区生活支援コーディネーター	サロンボランティアが元気になる場として開催
もみじランチ	Teamめいぷる	城井校区での長期休暇中の子育て世帯の食の支援

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター (高齢者相談支援センター) 社協
民生児童委員による心配ごと相談窓口	毎月第2火曜 9:30 ~ 11:00 耶馬溪高齢者センター
生活支援コーディネーターによる相談窓口「朝カフェ」	毎月第4木曜 10:00~14:00 まーちゃん家

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口 (P.153 参照) にお問い合わせ下さい

山 国

スローガン

みんな仲良し福祉の里やまくに

実践目標①お互いに助け合う見守り体制づくり

実践目標②誰もが生き生きと楽しくつながろう

実践目標③自ら作ろう安全・安心 自主防災組織



中津市の南西に位置する山国地区は、市内で最も高齢化率が高く、一人世帯や高齢者世帯の増加から、災害時などの支援体制づくりや見守りネットワークの立上げが行なわれています。

また、地区内の支え合い活動推進では、地域のボランティア活動や、いきいきサロンが活発に行われ、地域同士のつながりが生まれています。さらに、住民型有償サービス「やまくにつゆくさサービス」の活動など、住民主体の取り組みが進められています。

地域福祉ネットワーク協議会「“源流の郷”やまくに福祉の会」は、これらの活動の推進を担っています。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	2,841	2,445	2,086
世帯数	1,142	1,080	997
高齢化率	43.9%	47.9%	53.0%
一人暮らし高齢者	278	281	295
高齢者のみの世帯		818	763
0~18 歳人口	312	246	182

※各年ともに9月30日時点のもの(中津市の統計データより)

実践目標と理由・効果

実践目標①

お互いに助け合う見守り体制づくり

山国地区では、過疎高齢化が進み高齢者世帯や一人暮らし世帯、また、ひきこもりの人が増え、それに伴い健康面や生活面での不安を抱える人も増えてきています。そのような中で、一昨年から見守りネットワークが数地区立ち上がり活動を始めていますが、声かけや支援を必要としている人への関わりの必要性を実感しているという声が聞かれています。また、見守られる側からも「安心して生活が送れる。心強い。」などの声も聞かれています。そのような見守り体制づくりの取り組みを山国地区全体に立ち上げ、誰もひとりにしない地域づくりや「もしもの時」に対応できる関係づくりを目指します。

実践目標②

誰もが生き生きと楽しくつながろう

高齢化や人口の減少、そこにコロナが追い打ちをかけて地域行事や伝統行事が失われつつあり、地域全体での集まる場や交流も少なくなりました。昔はあった世代間を通じたご近所同士のつながりや助け合える関係が希薄になるのではないかと心配されます。そのような課題に取り組むために、伝統の遊びやふるさと料理を教え合ったり、若い人の思いを受け入れた行事を行うなど、近隣のつながりづくりを見直すことで生きがいづくりやリーダーの発掘にもつなげます。

実践目標③

自ら作ろう安全・安心 自主防災組織

近頃では、豪雨災害や土砂災害、地震など予測がつかない大災害が全国で発生しています。山間部に住む私たちにとって防災への対応は欠くことができないものとなっていますが、防災への意識が薄く、自主防災組織も機能していないのが現実です。さらに、避難訓練や防災学習などの実施を希望する声がありますが実施までに至っていません。今後は、地域住民自ら自主防災組織の立ち上げや既存の自主防災組織を充実させることで防災への意識を高め災害時にも安心安全に行動ができる組織作りを目指します。

他にも出ましたこんな課題!!

趣味を生かした
高齢者の生きがい
づくりを進めよう

みんな仲良し
明るい未来にしよう

後見人制度の学
習の場をもとう

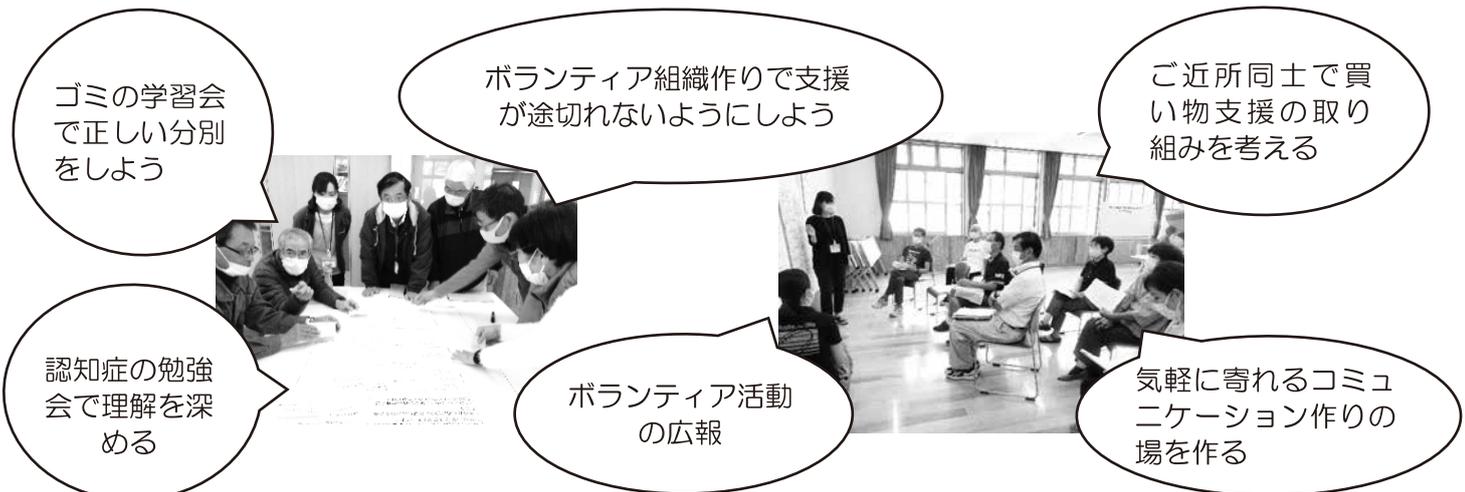


広域の
ネットワークづく
りを進めよう

自治組織を生
かした地域づ
くりを考える

【山国】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
ミニサロンを作って気軽に集まれるようにする					
困った時に助けてと言える関係づくりをする					
地域の支え合い見守りを継続できる体制を作る					
訪問して声掛けの機会を多く作る					
地域行事やサロンなどで、老若男女の役割を固定せず行う					
見守りネットワークを地区に広げていく					
伝統行事の継承					
遊びで世代間交流をする					
地域の人の特技を生かす場所づくり					
若者の意見や新しいものを取り入れた行事もしていく					
地域行事やサロンなどで老若男女の役割を固定しない取り組み					
リーダーの育成					
いつまでも自宅で暮らせる体カづくりを行う					
普段から消防団との話し合いや交流を行う					
災害の流れがわかる防災訓練を小地域で実施する					
災害関係の集会を定期的に関き常に意識づける					
サロン等の場で、地震の時の避難訓練をする					
小地区の無線も利用して周知する					
避難場所が危険な時はそれ以外の待機場所を決める					

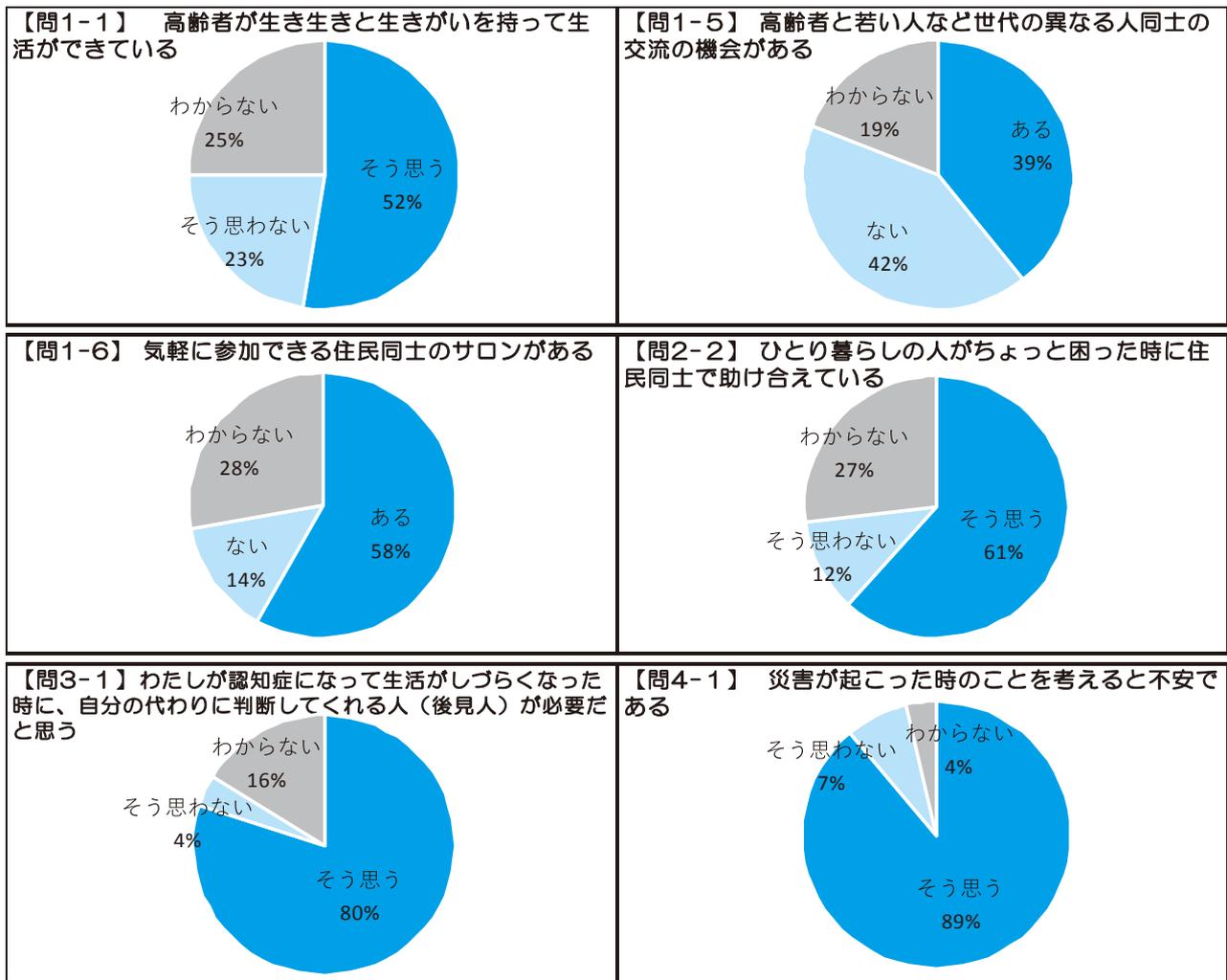


第4次の実践目標はこうして決まりました

山国地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	80人（男性36人/女性44人/無回答0人）
回答者年代	中学生・高校生：9人、20代：1人、30代：7人、40代：5人、50代：6人、60～64歳：5人、65～74歳：33人、75歳以上：14人

内容抜粋 無回答分は除いています



アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- いつまでも野菜作りができる体力を維持していく体力づくりの取り組み
- 地域行事やサロンなどでは老若男女の役割を固定しない取り組みが必要
- 地域みんなに周知できる、情報発信の方法や手段を考える必要がある
- この地区の問題点や今回出た意見を若い人達に伝え現状を知ってもらう
- お茶会や、生きがいや楽しみの場を作るには移動手段を確保する
- 家族や地域の人も認知症の勉強会が必要
- 障がい者との交流会や環境づくりをして関わりを持つ
- ゴミの分別や出す日が間違っていることが多いので、何度もゴミ集会を開いて習慣づけてもらう
- 災害関係の集会を定期的に関き常に意識づける



作業部会で出された、山国の良いところ

- ・サロンが活発に行われている
- ・公民館活動を通じて世代間の交流がある
- ・児童の見守り隊の活動が盛ん
- ・見守り体制づくり「見守りネットワーク」がある
- ・清掃や消防団など地域の活動に積極的に参加する人が多い
- ・高齢化しているが、地域の人々が支え合い見守りができている
- ・問題が起これば話し合っ協力し合っている自治区がある
- ・つながりを持つ趣味や交流で生きがいを作っている人が多い
- ・交流の場を定期的にもって地域の課題を話し合っている地区がある
- ・防犯対策が進み、以前より治安が良くなっている
- ・移動販売車が来てくれるので助かっている



様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



山国の社会資源

(R3 年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝 (住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです)

住民同士の交流・つながりの場	広域型いきいきサロン	たいしょう陣 (第3土曜・旧溝部小学校)
	いきいきサロン (18)	中摩ふれあいサロン、市平あぜみちの会、守実いきいきサロン、小屋川お楽しみ会、大杉の会、春田ふれあいサロン、守実公民館元気クラブ、鳶ヶ城サロン、槻木ふれあいサロン、上村なかよしサロン、草本すみれ会、婦人警防藤野木班やすらぎ、犬王丸ふれあいサロン、平小野「コロナ」サロン、殿畑の会、みさとサロン、長尾野ふれあいサロン、吉野けんこう隊
	週一体操教室 (2)	朝陽健康クラブ (毎週月曜・山国社会福祉センター) 守実健康クラブ (毎週金曜・守実コミュニティーセンター)
	その他	十日会 (毎月10日・市場公民館)
山国で活動する地域ボランティア		吉野草グループ、八日会、やまくにの歴史と文化を学ぶ会、やまくに山村塾、奥耶馬紅ひよっとこ衆、槻木源流ボランティア、はなみずきみぞべ、杉の子会、春田十人会
住民型有償サービス		やまくにつゆくさサービス
防災活動		消防団、中津市防災士協議会山国部会
防犯活動		三郷っ子見守り隊
見守り活動		見守りネットワーク (4ヶ所)
その他		山国町民生児童委員協議会配食サービス (年2回)

関係機関が主催する交流の場・社会貢献活動

名称	主催	対象・内容
オレンジカフェやまくに	地域包括支援センター社協	認知症の方やその家族等が気軽に参加できる場
よりあ	山国地区生活支援コーディネーター	75歳以上のひとり暮らしの方への孤食予防・食事作り・共食の場作り

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター (高齢者相談支援センター) 社協
民生児童委員による心配ごと相談窓口	毎月第3水曜 9:00 ~ 12:00 山国社会福祉センター
生活支援コーディネーターによる相談窓口	毎週第3水曜 13:00 ~ 16:00 山国社会福祉センター

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口 (P.153参照) にお問い合わせ下さい